



CHAPTER

7

Cisco Nexus 5000 シリーズ ファイバチャネルコマンド

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチに使用できる Cisco NX-OS ファイバチャネルコマンドおよびバーチャルファイバチャネルコマンドについて説明します。

cfs distribute

スイッチの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **cfs distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

cfs distribute

no cfs distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 CFS 配信はイネーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デフォルト設定では、CFS が配信モードになっています。また、配信モードでは、ファブリック全体の配信がイネーブルです。アプリケーションは、自身のファブリック内の CFS に対応したすべてのスイッチに設定データを配信できます。この設定が操作の通常モードです。

no cfs distribute コマンドを入力して CFS 配信をディセーブルにした場合、次のイベントが発生します。

- CFS コマンドが引き続き動作します。ただし、スイッチの CFS および CFS を使用するアプリケーションは、物理的な接続があったとしても残りのファブリックから隔離されます。
- すべての CFS の操作は隔離されたスイッチに制限されます。
- 他のスイッチで実行された CFS の操作（たとえば、ロック、確定、廃棄）は、隔離されたスイッチにはまったく反映されません。
- ファイバチャネルおよび IP の両方を介した CFS 配信がディセーブルになります。

例 次に、CFS 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs distribute
```

次に、CFS 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv4 distribute

この機能を使用するアプリケーション向けに IPv4 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **cfs ipv4** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

cfs ipv4 distribute

no cfs ipv4 distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 CFS 配信はイネーブルです。
CFS over IP はディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 同様のマルチキャスト アドレスを持つすべての CFS over IP 対応スイッチにより、1 つの CFS over IP ファブリックが構成されます。ネットワーク トポロジの変更を検知するためのキープアライブメカニズムといった CFS プロトコル特有の配信では、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報の送受信を行います。

このコマンドを使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IP およびファイバチャネルの両方を介してスイッチに到達可能である場合、アプリケーション データはファイバチャネルを介して配信されます。
- IP を介した CFS がイネーブルになっている場合は IPv4 配信または IPv6 配信のどちらかを選択できます。
- 同じスイッチ上で IPv6 配信および IPv4 配信の両方をイネーブルにすることはできません。
- IPv4 配信がイネーブルになっているスイッチは、IPv6 配信がイネーブルになっているスイッチを検知できません。これらのスイッチは互いに接続していても、2 つの別々のファブリックに存在するかのように動作します。

例 次に、CFS IPv4 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv4 distribute
This will prevent CFS from distributing over IPv4 network.
Are you sure? (y/n) [n]
```

次に、CFS IPv4 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv4 distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfs ipv4 mcast-address	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャスト アドレスを設定します。
	show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv4 mcast-address

IPv4 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信の IPv4 マルチキャストアドレスを設定するには、コンフィギュレーションモードで **cfs ipv4 mcast-address** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs ipv4 mcast-address ipv4-address
```

```
no cfs ipv4 mcast-address ipv4-address
```

シンタックスの説明	ipv4-address	IPv4 を介した CFS 配信の IPv4 マルチキャストアドレスを設定します。有効な IPv4 アドレスの範囲は、239.255.0.0 から 239.255.255.255 と、239.192.0.0 から 239.251.251.251 です。
-----------	--------------	--

コマンドのデフォルト設定 マルチキャストアドレス : 239.255.70.83

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用する前に、**cfs ipv4 distribute** コマンドを使用して IPv4 を介した CFS 配信をイネーブルにします。

同様のマルチキャストアドレスを持つすべての CFS over IP 対応スイッチにより、1 つの CFS over IP ファブリックが構成されます。ネットワーク トポロジの変更を検知するためのキープアライブメカニズムといった CFS プロトコル特有の配信では、IP マルチキャストアドレスを使用して情報の送受信を行います。アプリケーションデータの CFS 配信にはダイレクトユニキャストを使用します。

CFS over IP マルチキャストアドレスの値を設定できます。デフォルトの IPv4 マルチキャストアドレスは 239.255.70.83 です。

例 次に、CFS over IPv4 の IP マルチキャストアドレスを設定する例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv4 mcast-address 239.255.1.1
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

次に、IPv4 を介した CFS 配信のデフォルト IPv4 マルチキャストアドレスに戻す例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv4 mcast-address 10.1.10.100
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure?(y/n) [n] y
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfs ipv4 distribute	IPv4 を介した CFS 配信をイネーブルまたはディセーブルにします。
	show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv6 distribute

この機能を使用するアプリケーション向けに IPv6 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **cfs ipv6 distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

cfs ipv6 distribute

no cfs ipv6 distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 CFS 配信はイネーブルです。
CFS over IPv4 はディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 同様のマルチキャスト アドレスを持つすべての CFS over IP 対応スイッチにより、1 つの CFS over IP ファブリックが構成されます。ネットワーク トポロジの変更を検知するためのキープアライブメカニズムといった CFS プロトコル特有の配信では、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報の送受信を行います。

このコマンドを使用する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IP およびファイバチャネルの両方を介してスイッチに到達可能である場合、アプリケーション データはファイバチャネルを介して配信されます。
- IP を介した CFS がイネーブルになっている場合は IPv4 配信または IPv6 配信のどちらかを選択できます。
- 同じスイッチ上で IPv6 配信および IPv4 配信の両方をイネーブルにすることはできません。
- IPv4 配信がイネーブルになっているスイッチは、IPv6 配信がイネーブルになっているスイッチを検知できません。これらのスイッチは互いに接続していても、2 つの別々のファブリックに存在するかのように動作します。

例 次に、CFS IPv6 配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv6 distribute
This will prevent CFS from distributing over IPv6 network.
Are you sure? (y/n) [n]
```

次に、CFS IPv6 配信を再度イネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs ipv6 distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfs ipv6 mcast-address	IPv6 を介した CFS 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定します。
	show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs ipv6 mcast-address

IPv6 を介した Cisco Fabric Services (CFS) 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定するには、コンフィギュレーション モードで **cfs ipv6 mcast-address** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs ipv6 mcast-address ipv6-address
```

```
no cfs ipv6 mcast-address ipv6-address
```

シンタックスの説明	<i>ipv6-address</i>	IPv6 を介した CFS 配信の IPv6 マルチキャスト アドレスを設定します。IPv6 管理スコープ範囲は [ff15::/16, ff18::/16] です。
------------------	---------------------	---

コマンドのデフォルト設定	マルチキャスト アドレス : ff15::efff:4653
---------------------	--------------------------------

コマンドモード	コンフィギュレーションモード
----------------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用する前に、 cfs ipv6 distribute コマンドを使用して IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルにします。
-------------------	---

同様のマルチキャスト アドレスを持つすべての CFS over IP 対応スイッチにより、1 つの CFS over IP ファブリックが構成されます。ネットワーク トポロジの変更を検知するためのキープアライブメカニズムといった CFS プロトコル特有の配信では、IP マルチキャスト アドレスを使用して情報の送受信を行います。アプリケーションデータの CFS 配信には、ダイレクトユニキャストを使用します。

IPv6 の CFS over IP マルチキャスト アドレスの値を設定できます。デフォルトの IPv6 マルチキャスト アドレスは ff15::efff:4653 です。IPv6 管理スコープ範囲の例は、ff15::0000:0000 から ff15::ffff:ffff または ff18::0000:0000 から ff18::ffff:ffff です。

例	次に、CFS over IPv6 の IP マルチキャスト アドレスを設定する例を示します。
----------	--

```
switch(config)# cfs ipv6 mcast-address ff13::e244:4754
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

次に、IPv6 を介した CFS 配信のデフォルト IPv6 マルチキャスト アドレスに戻す例を示します。

```
switch(config)# no cfs ipv6 ff13::e244:4754
Distribution over this IP type will be affected
Change multicast address for CFS-IP ?
Are you sure? (y/n) [n] y
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cfs ipv6 distribute	IPv6 を介した CFS 配信をイネーブルまたはディセーブルにします。
	show cfs status	CFS 配信がイネーブルかディセーブルかを表示します。

cfs region

選択したスイッチに対して、アプリケーション配信の範囲を制限するような領域を作成するには、コンフィギュレーションモードで **cfs region** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
cfs region region-id
```

```
no cfs region region-id
```

シンタックスの説明	<i>region-id</i>	領域 ID を指定します。範囲は、1 ~ 255 です。合計 200 の領域がサポートされます。
------------------	------------------	--

コマンドのデフォルト設定 デフォルトの領域 ID は 0 です。

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 1 つのアプリケーションは、指定したスイッチ上の 1 つの領域にしか属することができません。領域 ID を作成してそれをアプリケーションに適用することで、アプリケーション配信は同様の ID を持つスイッチに制限されます。

Cisco Fabric Services (CFS) 領域により、アプリケーション スコープから孤立した配信領域を作成することができます。現在、領域は物理的なスコープ アプリケーションに対してのみサポートされます。領域の設定が行われていない場合、アプリケーションはデフォルト領域に属します。デフォルトの領域は領域 ID 0 です。

例 次に、領域 ID の作成例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1
```

次に、領域にアプリケーションを割り当てる例を示します。

```
switch(config)# cfs region 1
switch(config-cfs-region)# ntp, The applications assigned to a region must be
registered with CFS.
```

次に、領域に割り当てられているアプリケーションを削除する例を示します。

```
switch# cfs region 1
switch(config-cfs-region)# no ntp
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cfs regions	全設定済アプリケーションとピアを表示します。

cfs staggered-merge

CFS は、複数の VSAN からのデータを結合できます。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

cfs staggered-merge enable

no staggered-merge enable

シンタックスの説明	enable	CFS staggered-merge オプションをイネーブルにします。
-----------	---------------	--------------------------------------

コマンドのデフォルト設定 スタッガード マージはディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、CFS スタッガード マージをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# cfs staggered-merge enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show cfs status	スタッガード マージがイネーブルになっているかどうかを表示します。

clear device-alias

デバイスエイリアス情報を消去するには、**clear device-alias** コマンドを使用します。

```
clear device-alias {database | session | statistics}
```

シンタックスの説明	オプション	説明
	database	デバイスエイリアスデータベースを消去します。
	session	セッション情報を消去します。
	statistics	デバイスエイリアス統計情報を消去します。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、デバイスエイリアスセッションを消去する例を示します。

```
switch# clear device-alias session
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

clear fcdomain

設定済みホストのリスト全体を消去するには、EXEC モードで **clear fcdomain** コマンドを使用します。

```
clear fcdomain session vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	オプション	説明
	session	セッション情報を消去します。
	vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN のファイバチャネル ドメインを消去します。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、設定されたホストのリストのみ消去します。既存の接続は切断されません。

例 次に、リモート キャプチャ用に設定されたホストのリスト全体を消去する例を示します。

```
switch# clear fcdomain
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcdomain	リモート キャプチャ用に設定されたホストのリストを表示します。

clear fcfow stats

ファイバチャネルフローの統計情報を消去するには、EXEC モードで **clear fcfow stats** コマンドを使用します。

clear fcfow stats [aggregated] index

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	aggregated	(任意) ファイバチャネルフローの集約統計情報を消去します。
	index	指定フロー インデックスのファイバチャネルフロー カウンタを消去します。
	<i>flow-index</i>	フロー インデックス番号を指定します。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

例 次に、フロー インデックス 1 に対する集約ファイバチャネルフロー統計情報を消去する例を示します。

```
switch(config)# clear fcfow stats aggregated index 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcfow	fcfow 統計情報を表示します。

clear fcns statistics

ネーム サーバの統計情報を消去するには、EXEC モードで **clear fcns statistics** コマンドを使用します。

```
clear fcns statistics vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN の FCS 統計情報を消去します。
-----------	---------------------	---

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

例	次に、ネーム サーバ統計情報を消去する例を示します。
---	----------------------------

```
switch# clear fcns statistics vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcns statistics	ネーム サーバ統計情報を表示します。

clear fcsn log

FCSM ログを消去するには、EXEC モードで **clear fcsn log** コマンドを使用します。

clear fcsn log

シンタックスの説明 なし

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

例 次に、FCSM ログを消去する例を示します。

```
switch# clear fcsn log
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs	ファブリック設定サーバ情報を表示します。

clear fcs statistics

ファブリック設定サーバ統計情報を消去するには、EXEC モードで **clear fcs statistics** コマンドを使用します。

```
clear fcs statistics vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	1 ~ 4093 の範囲で指定された VSAN の FCS 統計情報を消去します。
コマンドのデフォルト設定	なし	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
例	次に、VSAN 10 のファブリック設定サーバ統計情報を消去する例を示します。 <pre>switch# clear fcs statistics vsan 10</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs statistics	ファブリック設定サーバ統計情報を表示します。

clear fctimer session

fctimer Cisco Fabric Services (CFS) セッションのコンフィギュレーションおよびロックを消去するには、**clear fctimer session** コマンドを使用します。

clear fctimer session

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、fctimer セッションを消去する例を示します。

```
switch# clear fctimer session
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fctimer	fctimer 情報を表示します。

clear fspf counters

Fabric Shortest Path First (FSPF) 統計情報を消去するには、EXEC モードで **clear fspf counters** コマンドを使用します。

```
clear fspf counters vsan vsan-id [interface type]
```

シンタックスの説明	vsan	VSAN でカウンタを消去します。
	vsan-id	VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
	interface type	(任意) インターフェイスでカウンタを消去します。インターフェイス タイプは、fc (ファイバチャネル) と san-port-channel (SAN ポートチャネル) です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インターフェイスが指定されていない場合、VSAN のすべてのカウンタが消去されます。インターフェイスが指定されている場合、指定のインターフェイスのカウンタが消去されます。

例 次に、VSAN 1 の FSPF 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear fspf counters vsan 1
```

次に、指定のファイバチャネルインターフェイスの VSAN 1 の FSPF 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear fspf counters vsan 1 interface fc 3/2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf	特定の VSAN に対するグローバルな FSPF 統計情報を表示します。

clear port-security

スイッチのポート セキュリティ情報を消去するには、EXEC モードで **clear port-security** コマンドを使用します。

```
clear port-security {database auto-learn {interface fc slot/port | san-port-channel port} | session |
statistics} vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

database	ポート セキュリティのアクティブ コンフィギュレーション データベースを消去します。
session	ポートセキュリティ Cisco Fabric Services (CFS) コンフィギュレーション セッションおよびロックを消去します。
statistics	ポートセキュリティ カウンタを消去します。
auto-learn	指定のインターフェイスまたは VSAN (仮想 SAN) の自動学習された エントリを消去します。
interface fc slot/port	指定のファイバ チャネル インターフェイスの情報を消去します。
san-port-channel port	指定の SAN ポート チャネルのエントリを消去します。有効範囲は 1 ~ 128 です。
vsan vsan-id	指定 VSAN ID のエントリを消去します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

アクティブ データベースは読み取り専用です。 **clear port-security database** コマンドは、競合解決時に使用できます。

例

次に、指定 VSAN のポート セキュリティ データベースから既存の統計情報をすべて消去する例を示します。

```
switch# clear port-security statistics vsan 1
```

次に、VSAN 内の指定インターフェイスのアクティブ データベースから、学習エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear port-security database auto-learn interface fc2/1 vsan 1
```

次に、VSAN 全体のアクティブ データベースから、学習エントリを消去する例を示します。

```
switch# clear port-security database auto-learn vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-security	設定されたポートセキュリティ情報を表示します。

clear rlr

Registered Link Incident Report (RLIR) 情報を消去するには、EXEC モードで **clear rlr** コマンドを使用します。

```
clear rlr {history | recent {interface fc slot/port | port number port} | statistics vsan vsan-id }
```

シンタックスの説明

history	RLIR のインシデント リンク履歴を消去します。
recent	最近のリンク インシデントを消去します。
interface fc slot/port	指定インターフェイスのエントリを消去します。
port number port	リンク インシデントのポート番号を表示します。
statistics	RLIR 統計情報を消去します。
vsan vsan-id	VSAN の RLIR 統計情報を消去します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、VSAN 1 の RLIR 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear rlr statistics vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rlr	RLIR 情報を表示します。

clear rscn session

指定の VSAN の Registered State Change Notification (RSCN) セッションを消去するには、**clear rscn session** コマンドを使用します。

```
clear rscn session vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	RSCN セッションを消去する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	---

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例 次に、VSAN 1 の RSCN セッションを消去する例を示します。

```
switch# clear rscn session vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn	RSCN を設定します。
	show rscn	RSCN 情報を表示します。

clear rscn statistics

指定 VSAN の Registered State Change Notification (RSCN) 統計情報を消去するには、EXEC モードで **clear rscn statistics** コマンドを使用します。

```
clear rscn statistics vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan	VSAN の RSCN 統計情報を消去します。
	vsan-id	VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、VSAN 1 の RSCN 統計情報を消去する例を示します。

```
switch# clear rscn statistics vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show rscn	RSCN 情報を表示します。

clear zone

指定 VSAN のゾーン サーバの設定情報をすべて消去するには、EXEC モードで **clear zone** コマンドを使用します。

```
clear zone {database | lock | statistics } vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

database	ゾーン サーバ データベース情報を消去します。
lock	ゾーン サーバ データベース ロックを消去します。
statistics	ゾーン サーバ統計を消去します。
vsan	VSAN (仮想 SAN) のゾーン情報を消去します。
vsan-id	VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次回のスイッチ起動時に **clear zone database** コマンドを含む実行コンフィギュレーションが使用されるようにするには、このコマンドの入力後に明示的に **copy running-config startup-config** コマンドを入力する必要があります。

リモート スイッチから **clear zone lock** コマンドを入力した場合は、そのリモート スイッチのロックのみが消去されます。ロックを行ったスイッチから **clear zone lock** コマンドを入力すると、その VSAN 内のすべてのロックが消去されます。ロックを行ったスイッチのセッション ロックを消去する方法として、**no zone commit vsan** コマンドを使用することを推奨します。

例

次に、VSAN 1 のゾーン サーバ内の設定情報をすべて消去する例を示します。

```
switch# clear zone database vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	設定されたインターフェイスのゾーン情報を表示します。

device-alias abort

進行中の Distributed Device Alias Services (デバイス エイリアス) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、コンフィギュレーションモードで **device-alias abort** コマンドを使用します。

device-alias abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、進行中のデバイス エイリアス CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# device-alias abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定および有効にします。
	device-alias distribute	デバイス エイリアスの CFS 分配をイネーブルにします。
	show device-alias	デバイス エイリアス情報を表示します。

device-alias commit

ファブリック内で進行中の Distributed Device Alias Services (デバイス エイリアス) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関連した未決定コンフィギュレーションを適用するには、コンフィギュレーション モードで **device-alias commit** コマンドを使用します。

device-alias commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、未決定の変更を確定して Dynamic Port VSAN Membership (DPVM; ダイナミック ポート VSAN メンバシップ) データベースを有効にする例を示します。

```
switch(config)# device-alias commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイス エイリアス データベースを設定および有効にします。
	device-alias distribute	デバイス エイリアスの CFS 分配をイネーブルにします。
	show device-alias	デバイス エイリアス情報を表示します。

device-alias database

Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) セッションを開始して、デバイスエイリアス データベースを設定するには、**device-alias database** コマンドを使用します。デバイスエイリアス データベースを無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias database

no device-alias database

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 無効

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **device-alias database** コマンドは、このファブリックにあるすべてのスイッチ上のすべてのデータベースをロックするデバイスエイリアスセッションを開始します。デバイスエイリアス コンフィギュレーション サブモードを終了したとき、デバイスエイリアスセッションが終了し、ロックが解除されます。

一時的なデバイスエイリアス データベースでのみすべての変更内容を実行できます。変更を永続的なものにするには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例 次に、デバイスエイリアスセッションを有効にし、デバイスエイリアス データベース コンフィギュレーション サブモードにする例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias commit	一時的なデバイスエイリアス データベースへの変更をアクティブ デバイスエイリアス データベースに適用します。
	show device-alias	デバイスエイリアス データベース情報を表示します。

device-alias distribute

Distributed Device Alias Services (デバイスエイリアス) の Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**device-alias distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias distribute

no device-alias distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 イネーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン CFS 配信セッションへ未決定の変更を適用するには、**device-alias commit** コマンドを使用します。

例 次に、デバイスエイリアス情報の配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# device-alias distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias commit	アクティブデバイスエイリアスデータベースへの変更を確定します。
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
	show device-alias	デバイスエイリアス情報を表示します。

device-alias import fcalias

デバイスエイリアスデータベース情報を別の VSAN からインポートするには、**device-alias import fcalias** コマンドを使用します。デフォルト コンフィギュレーションまたは工場出荷時のデフォルトに戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias import fcalias vsan vsan-id
```

```
no device-alias import fcalias vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンド モード	コンフィギュレーション モード
----------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 次の制限を満たしている場合、この機能を使用して、データを損失することなくレガシー デバイス名コンフィギュレーションをインポートできます。

- 各 fcalias には、メンバーが 1 つだけある。
- メンバー タイプがデバイス名実装でサポートされている。

名前の競合が存在する場合、fcalias はインポートされません。デバイス名データベースは、VSAN 従属 fcalias データベースから完全に独立しています。

インポート操作が完了したら、新しい定義がどこでも利用できるように、**device-alias distribute** コマンドを使用して、物理ファブリック内にある他のすべてのスイッチに変更したグローバル fcalias テーブルを配信できます。

例 次に、デバイスエイリアス情報をインポートする例を示します。

```
switch(config)# device-alias import fcalias vsan 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベースを設定および有効にします。
	device-alias distribute	fcalias データベースの変更をファブリックに配信します。
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias mode

デバイスエイリアス拡張モードを設定するには、**device-alias mode** コマンドを使用します。デバイスエイリアス拡張モードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias mode enhanced

no device-alias mode enhanced

シンタックスの説明	mode enhanced 拡張モードを指定します。						
コマンドのデフォルト設定	なし						
コマンドモード	コンフィギュレーションモード						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Release 4.0</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Release 4.0	このコマンドが導入されました。		
リリース	変更内容						
Release 4.0	このコマンドが導入されました。						
使用上のガイドライン	なし						
例	次に、デバイスエイリアス拡張モードにする例を示します。 <pre>switch(config)# device-alias mode enhanced</pre>						
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>device-alias database</td> <td>デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションサブモードにします。</td> </tr> <tr> <td>show device-alias</td> <td>デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	device-alias database	デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションサブモードにします。	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。
コマンド	説明						
device-alias database	デバイスエイリアスデータベースコンフィギュレーションサブモードにします。						
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。						

device-alias name

デバイスエイリアスデータベースにデバイス名を設定するには、**device-alias name** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースからデバイス名を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

device-alias name *device-name* **pwwn** *pwwn-id*

no device-alias name *device-name*

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>device-name</i>	デバイス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	pwwn <i>pwwn-id</i>	pWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。ここで、 <i>h</i> は 16 進数の数です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、デバイス名データベースにデバイス名エイリアス エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias name Device1 pwwn 21:00:00:20:37:6f:db:bb
```

関連コマンド	コマンド	説明
	device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーションサブモードにします。
	show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

device-alias rename

デバイスエイリアスデータベースにデバイス名を設定するには、**device-alias rename** コマンドを使用します。デバイスエイリアスデータベースからデバイス名を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
device-alias rename device-name1 device-name2
```

```
no device-alias rename device-name
```

シンタックスの説明

<i>device-name1</i>	現行のデバイス名を指定します。
<i>device-name2</i>	新しいデバイス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、デバイス名データベースにデバイス名エイリアス エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# device-alias database
switch(config-device-alias-db)# device-alias rename Device1 Device2
```

関連コマンド

コマンド	説明
device-alias database	デバイスエイリアスデータベース コンフィギュレーション サブモードにします。
show device-alias	デバイスエイリアスデータベース情報を表示します。

discover custom-list

VSAN の指定ドメイン ID の検出を選択的に開始するには、EXEC モードで **discover custom-list** コマンドを使用します。

```
discover custom-list {add | delete} vsan vsan-id domain domain-id
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
add		カスタマイズされたリストにターゲットを追加します。
delete		カスタマイズされたリストからターゲットを削除します。
vsan vsan-id		指定した VSAN (仮想 SAN) ID の SCSI ターゲットを検出します。範囲は 1 ~ 4093 です。
domain domain-id		指定したドメイン ID の SCSI ターゲットを検出します。範囲は 1 ~ 239 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、指定の VSAN およびドメイン ID の検出を選択的に開始する例を示します。

```
switch# discover custom-list add vsan 1 domain 2
```

次に、カスタマイズされたリストから指定の VSAN およびドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch# discover custom-list delete vsan 1 domain 2
```

discover scsi-target

スイッチに接続されているローカル ストレージまたはファブリック全体のリモート ストレージの SCSI ターゲットを検出するには、EXEC モードで **discover scsi-target** コマンドを使用します。

```
discover scsi-target {custom-list | local | remote | vsan vsan-id fcid fc-id} os {aix | all | hpux | linux | solaris | windows} [lun | target]
```

シンタックスの説明

custom-list	カスタマイズされたリストから SCSI ターゲットを検出します。
local	ローカル SCSI ターゲットを検出します。
remote	リモート SCSI ターゲットを検出します。
vsan vsan-id	指定した VSAN (仮想 SAN) ID の SCSI ターゲットを検出します。範囲は 1 ~ 4093 です。
fcid fc-id	指定の Fibre Channel ID (FCID) の SCSI ターゲットを検出します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
os	指定したオペレーティング システムを検出します。
aix	AIX OS を検出します。
all	すべての OS を検出します。
hpux	HPUX OS を検出します。
linux	Linux OS を検出します。
solaris	Solaris OS を検出します。
windows	Windows OS を検出します。
lun	(任意) SCSI ターゲットおよび Logical Unit Number (LUN) を検出します。
target	(任意) SCSI ターゲットを検出します。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、すべての OS に割り当てられたローカル ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target local os all
discovery started
```

次に、Windows OS に割り当てられたリモート ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target remote os windows
discovery started
```

次に、指定の VSAN (1) および FCID (0x9c03d6) の SCSI ターゲットを検出する例を示します。

```
switch# discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6 os aix
discover scsi-target vsan 1 fcid 0x9c03d6
VSAN:      1 FCID: 0x9c03d6 PWWN: 00:00:00:00:00:00:00:00
      PRLI RSP: 0x01 SPARM: 0x0012...
```

次に、Linux OS に割り当てられ、カスタマイズされたリストからのターゲット検出を開始する例を示します。

```
switch# discover scsi-target custom-list os linux
discovery started
```

fabric profile

事前設定された QoS 値を利用するには、コンフィギュレーションモードで **fabric profile** コマンドを使用します。デフォルトにリストアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fabric profile {reliable-multicast | unicast-optimized}
```

```
no fabric profile
```

シンタックスの説明	reliable-multicast	unicast-optimized
	マルチキャストトラフィック配信の信頼性を高めるためにファブリックの QoS パラメータを最適化します。	ユニキャストトラフィックに関するファブリックの QoS パラメータを最適化します。

コマンドのデフォルト設定 unicast-optimized

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、マルチキャストトラフィック配信の信頼性を高めるようなファブリックの設定例を示します。

```
switch(config)# fabric profile reliable-multicast
```

次に、ファブリックプロファイルをデフォルト値に設定する例を示します。

```
switch(config)# no fabric profile
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fabric profile	ファブリックの現行の設定値を表示します。

fabric-binding activate

VSAN のファブリック バインディングを有効にするには、コンフィギュレーション モードで **fabric-binding activate** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fabric-binding activate vsan vsan-id [force]
```

```
no fabric-binding activate vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
	force	(任意) ファブリック バインディングを強制的に有効にします。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを有効にする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding activate vsan 1
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを無効にする例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding activate vsan 10
```

次に、指定の VSAN のファブリック バインディング データベースを強制的に有効にする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding activate vsan 3 force
```

次に、以前の設定状態または出荷時の状態（未設定の場合）に戻す例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding activate vsan 1 force
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。
	fabric-binding enable	ファブリック バインディングをイネーブルにします。

fabric-binding database copy

アクティブなファブリック バインディング データベースからコンフィギュレーション ファブリック バインディング データベースへのコピーを実行するには、EXEC モードで **fabric-binding database copy** コマンドを使用します。

fabric-binding database copy vsan vsan-id

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	<p>ファブリック バインディングは、VSAN 単位で構成されており、Fibre Connection (FICON; 光ファイバ接続) VSAN およびファイバ チャネル VSAN の両方に実装できます。</p> <p>設定されたデータベースが空の場合、このコマンドは実行されません。</p>	
例	<p>VSAN 1 内のアクティブなデータベースからコンフィギュレーション データベースへコピーする例を示します。</p> <pre>switch# fabric-binding database copy vsan 1</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding diff	ファブリックバインディング データベース間の差異を提供します。

fabric-binding database diff

VSAN のアクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの差異を表示するには、EXEC モードで **fabric-binding database diff** コマンドを使用します。

```
fabric-binding database diff {active | config} vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	active	コンフィギュレーション データベースに対するアクティブ データベース内の差異についての情報を提供します。
	config	アクティブ データベースに対するコンフィギュレーション データベース内の差異についての情報を提供します。
	vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファブリック バインディングは、VSAN 単位で構成されており、Fibre Connection (FICON; 光ファイバ接続) VSAN およびファイバチャネル VSAN の両方に実装できます。

例 次に、VSAN 1 のアクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの間の差異を表示する例を示します。

```
switch# fabric-binding database diff active vsan 1
```

次に、コンフィギュレーション データベースとアクティブ データベースの間の差異に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# fabric-binding database diff config vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding copy	アクティブ ファブリック バインディング データベースからコンフィギュレーション ファブリック バインディング データベースにコピーします。

fabric-binding database vsan

VSAN のユーザ指定ファブリック バインディング リストを設定するには、コンフィギュレーション モードで **fabric-binding database vsan** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fabric-binding database vsan vsan-id
swwn switch-wwn domain domain-id
```

```
fabric-binding database vsan vsan-id
no swwn switch-wwn domain domain-id
```

```
no fabric-binding database vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
	swwn switch-wwn	スイッチの World Wide Name (WWN) をドットで区切られた 16 進数のフォーマットで設定します。
	domain domain-id	特定のドメイン ID を指定します。ドメイン ID の範囲は 1 ~ 239 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファブリック バインディングは VSAN 単位で設定されます。ファイバチャネル VSAN で必要なのは、switch World Wide Name (sWWN) だけです (sWWN_ は必須ですが、ドメイン ID は任意です)。ユーザ指定のファブリック バインディング リストには、ファブリック内の sWWN のリストが含まれています。リストにない sWWN、または許可リストで指定されているドメイン ID と異なるドメイン ID を使用する sWWN がファブリックへの参加を試みると、スイッチとファブリック間の ISL が VSAN 内で自動的に隔離され、スイッチはファブリックへの参加を拒否されます。

例 次に、ファブリック バインディング データベース サブモードを開始して、スイッチの sWWN およびドメイン ID を、設定済みのデータベース リストに追加する例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding database vsan 5
switch(config-fabric-binding)# swwn 21:00:05:30:23:11:11:11 domain 102
```

次に、指定 VSAN のファブリック バインディング データベースを削除する例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding database vsan 10
```

次に、設定されたデータベース リストから、スイッチの sWWN およびドメイン ID を削除する例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding database vsan 5
switch(config-fabric-binding)# no swwn 21:00:15:30:23:1a:11:03 domain 101
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding activate	ファブリック バインディングを有効にします。
	fabric-binding enable	ファブリック バインディングをイネーブルにします。

fabric-binding enable

VSAN のファブリック バインディングをイネーブルにするには、**fabric-binding enable** コマンドを使用します。ファブリック バインディングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fabric-binding enable

no fabric-binding enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファブリック バインディングは VSAN 単位で設定されます。

ファブリック バインディング機能は、ファブリック バインディングに参加しているファブリックの各スイッチでイネーブルにする必要があります。

例 次に、スイッチのファブリック バインディングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fabric-binding enable
```

次に、スイッチのファブリック バインディングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fabric-binding enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fabric-binding activate	ファブリック バインディングを有効にします。
	fabric-binding database	ファブリック バインディング データベースを設定します。

fcalias clone

ファイバチャネルエイリアスを複製するには、**fcalias clone** コマンドを使用します。

```
fcalias clone origFcalias-Name cloneFcalias-Name vsan vsan-id
```

シンタックスの説明		
<i>origFcalias-Name cloneFcalias-Name</i>		現在の名前から新しい名前に FC エイリアスを複製します。名前は最大 64 文字です。
vsan		VSAN (仮想 SAN) の複製 FC エイリアスです。
<i>vsan-id</i>		VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネルエイリアスをディセーブルにするには、**fcalias name** コマンドの **no** 形式を使用します。

例 VSAN 45 の cloneAlias に、origAlias という名前の FC エイリアスを複製する例を示します。

```
switch(config)# fcalias clone origAlias cloneAlias vsan 45
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcalias	FC エイリアスのメンバー名情報を表示します。

fcalias name

ファイバチャネルエイリアスを設定するには、**fcalias name** コマンドを使用します。ファイバチャネルエイリアスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcalias name alias name vsan vsan-id
```

```
no fcalias name alias name vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	alias-name	FC エイリアス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	vsan	VSAN（仮想 SAN）用の FC エイリアスを指定します。
	vsan-id	VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン エイリアス内に複数のメンバーを含めるには、FC ID、fWWN、または pWWN 値を使用します。

例 次に、VSAN 3 上に AliasSample という名前の FC エイリアスを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcalias name AliasSample vsan 3
switch(config-fcalias)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	member (FC エイリアス コン フィギュレーションモード)	指定のゾーンに対するエイリアスメンバーを設定します。

fcalias rename

ファイバチャネルエイリアス (fcalias) の名前を変更するには、**fcalias rename** コマンドを使用します。

```
fcalias rename current-name new-name vsan vsan-id
```

```
no fcalias rename current-name new-name vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>current-name</i>	現在の FC エイリアスの名前を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	vsan <i>vsan-id</i>	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、FC エイリアスの名前を変更する例を示します。

```
switch(config)# fcalias rename oldalias newalias vsan 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcalias name	FC エイリアス名を設定します。
	show fcalias	FC エイリアス情報を表示します。

fcdomain

ファイバチャネル ドメイン機能を設定するには、**fcdomain** コマンドを使用します。ファイバチャネル ドメインをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain {allowed domain vsan vsan-id | auto-reconfigure vsan vsan-id | contiguous-allocation vsan vsan-id | domain id {preferred | static} vsan vsan-id | fabric-name name vsan vsan-id | fcid {database | persistent vsan vsan-id} | optimize fast-restart vsan vsan-id | priority value vsan vsan-id | restart [disruptive] vsan vsan-id | vsan vsan-id}
```

```
no fcdomain {allowed domain vsan vsan-id | auto-reconfigure vsan vsan-id | contiguous-allocation vsan vsan-id | domain id {preferred | static} vsan vsan-id | fabric-name name vsan vsan-id | fcid {database | persistent vsan vsan-id} | optimize fast-restart vsan vsan-id | priority value vsan vsan-id | restart [disruptive] vsan vsan-id | vsan vsan-id}
```

シンタックスの説明

allowed domain	許可されたドメイン ID のリストを設定します。有効範囲は 1 ～ 239 です。
vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
auto-reconfigure	自動再設定を設定します。
contiguous-allocation	一連の割り当てを設定します。
domain id	ドメイン ID とそのタイプを設定します。有効範囲は 0 ～ 239 です。
preferred	優先させるドメイン ID を設定します。デフォルトでは、主要スイッチによって割り当てられたドメイン ID がローカル スイッチで受け入れられ、割り当てられたドメイン ID は実行中のドメイン ID になります。
static	スタティックにドメイン ID を設定します。割り当てられたドメイン ID は廃棄されます。すべてのローカル インターフェイスが独立し、ローカル スイッチが自身に設定されたドメイン ID を割り当てます。割り当てられたドメイン ID が実行中のドメイン ID になります。
fabric-name name	ファブリック名を指定します。名前のフォーマットは、 hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
fcid	ファイバチャネル ドメインに永続的な FC ID を設定します。
database	永続的な FC ID サブモードを開始します。
persistent	ファイバチャネル ドメインの永続的な FC ID をイネーブル、またはディセーブルにします。
optimize fast-restart	指定の VSAN 上でドメイン マネージャの高速再起動をイネーブルにします。
priority value	(任意) ファイバチャネル ドメインのプライオリティを指定します。有効範囲は 1 ～ 254 です。
restart	中断のある、または障害のないファブリックの再設定を開始します。
disruptive	(任意) 中断を伴うファブリック再設定を強制的に実行します。

コマンドのデフォルト設定

イネーブル

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、主要なスイッチの選択、ドメイン ID 配信の設定、ファブリックの再構成、および FC ID の割り当てを実行できます。

大部分のファブリックでは、特に多数の論理ポート（3200 以上）を使用する場合は、**optimize fast-restart** オプションを使用することを推奨します。論理ポートは VSAN 内の物理ポートのインスタンスであるためです。

例

次に、VSAN 87 に優先ドメイン ID を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain domain 3 preferred vsan 87
```

次に、VSAN 1 に中断を伴うファブリック再設定を指定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain restart disruptive vsan 1
```

次に、VSAN 7～10 のドメイン マネージャ ファスト リスタートをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain optimize fast-restart vsan 7 - 10
```

次に、VSAN3 に fabric World Wide Name (fWWN) を設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdomain fabric-name 20:1:ac:16:5e:0:21:01 vsan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcdomain	ファイバチャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain abort vsan

キャッシュされたデータを確定せずにフラッシュして、ロックを解除するには、**fcdomain abort vsan** コマンドを使用します。キャッシュされたデータのフラッシュをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain abort vsan vsan-id
```

```
no fcdomain abort vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	<i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定		イネーブル
コマンド モード		コンフィギュレーション モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン		なし
例		次に、キャッシュされたデータをフラッシュする例を示します。 switch(config)# fcdomain abort vsan 10
関連コマンド	コマンド	説明
	fcdomain	ファイバチャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
	fcdomain commit vsan	キャッシュされたデータを確定し、ロックを解除します。
	show fcdomain	ファイバチャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain commit vsan

キャッシュされたデータを確定して、ロックを解除するには、**fcdomain commit vsan** コマンドを使用します。キャッシュされたデータを確定せずにロックを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain commit vsan vsan-id
```

```
no fcdomain commit vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	-----------------------------------

コマンドのデフォルト設定	イネーブル
--------------	-------

コマンド モード	コンフィギュレーション モード
----------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例	キャッシュされたデータを確定する例を示します。
---	-------------------------

```
switch(config)# fcdomain commit vsan 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcdomain	ファイバチャネル ドメイン機能をイネーブルにします。
	fcdomain abort vsan	キャッシュされたデータを確定せずにフラッシュし、ロックを解除します。
	show fcdomain	ファイバチャネル ドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain distribute

Cisco Fabric Services (CFS) を使用したファブリック配信をイネーブルにするには、**fcdomain distribute** コマンドを使用します。CFS を使用したファブリック配信をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

fcdomain distribute

no fcdomain distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、CFS を使用したファブリック配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcdomain distribute
```

次に、CFS を使用したファブリック配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcdomain distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcdomain	ファイバチャネルドメイン機能をイネーブルにします。
	show fcdomain	ファイバチャネルドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。

fcdomain rcf-reject

ファイバチャネル インターフェイスの RCF 拒否フラグをイネーブルにするには、**fcdomain** オプションを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
```

```
no fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。						
コマンドのデフォルト設定	イネーブル						
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション サブモード						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(0)NI(1a)</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)NI(1a)	このコマンドが導入されました。		
リリース	変更内容						
4.0(0)NI(1a)	このコマンドが導入されました。						
使用上のガイドライン	選択したファイバチャネルまたはバーチャルファイバチャネルのインターフェイスに RCF 拒否オプションを設定するには、このオプションを使用します。						
例	<p>次に、バーチャルファイバチャネルインターフェイスに FCIP RCF reject fcdomain 機能を設定する例を示します。</p> <pre>switch(config)# interface vfc 3/1 switch(config-if)# fcdomain rcf-reject vsan 1</pre>						
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>show fcdomain</td> <td>ファイバチャネルドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。</td> </tr> <tr> <td>show interface fc</td> <td>指定したファイバチャネルインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	show fcdomain	ファイバチャネルドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。	show interface fc	指定したファイバチャネルインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
コマンド	説明						
show fcdomain	ファイバチャネルドメインの設定に関するグローバルな情報を表示します。						
show interface fc	指定したファイバチャネルインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。						

fcdroplateny

ネットワークおよびスイッチのファイバチャネル廃棄遅延時間を設定するには、コンフィギュレーションモードで **fcdroplateny** コマンドを使用します。ファイバチャネル遅延時間をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcdroplateny {network milliseconds [vsan vsan-id] | switch milliseconds}
```

```
no fcdroplateny {network milliseconds [vsan vsan-id] | switch milliseconds}
```

シンタックスの説明	network milliseconds	ネットワークの遅延を指定します。有効範囲は 500 ~ 60000 です。
	vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
	switch milliseconds	スイッチの遅延を指定します。有効値は 0 ~ 60000 ミリ秒です。

コマンドのデフォルト設定	ネットワーク遅延 : 2000 ミリ秒 スイッチ遅延 : 500 ミリ秒
--------------	---

コマンドモード	コンフィギュレーションモード
---------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例 次に、ネットワーク遅延時間を 5000 ミリ秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# fcdroplateny network 5000
```

次に、スイッチ遅延時間をデフォルトに戻す例を示します。

```
switch(config)# no fcdroplateny switch 4000
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcdroplateny	設定されているファイバチャネル廃棄遅延パラメータを表示します。

fcflow stats

fcflow 統計情報を設定するには、コンフィギュレーション モードで **fcflow stats** コマンドを使用します。このカウンタをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcflow stats {aggregated index flow-number vsan vsan-id | index flow-number destination-fcid
source-fcid netmask vsan vsan-id}
```

```
no fcflow stats {aggregated index flow-number | index flow-number}
```

シンタックスの説明

aggregated	集約 fcflow 統計情報を設定します。
index <i>flow-number</i>	フロー インデックスを指定します。有効範囲は 1 ~ 2147483647 です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
<i>destination-fcid</i>	宛先 Fibre Channel (FC) ID を 16 進数のフォーマットで入力します。
<i>source-fcid</i>	送信元 FCID を 16 進数のフォーマットで入力します。
<i>netmask</i>	送信元および宛先 FCID のマスクを入力します (16 進数で最大 6 文字で、範囲は 0xff0000 ~ 0xfffff)。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

フロー カウンタをイネーブルにした場合、集約フローおよびフロー統計情報に対して最大 1024 のエントリをイネーブルにできます。新フローごとに必ず未使用のフロー インデックスを割り当ててください。フロー インデックスの番号は、集約フロー統計情報とフロー統計情報間で共有します。

例

次に、集約フロー カウンタをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcflow stats aggregated index 1005 vsan 1
```

次に、集約フロー カウンタをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcflow stats aggregated index 1005
```

次に、特定のフローのフロー カウンタをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcflow stats index 1 0x145601 0x5601 0xffffffff vsan 1
```

次に、インデックス 1001 のフロー カウンタをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no fcflow stats index 1001
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcflow stats	設定されているファイバチャネル廃棄遅延パラメータを表示します。

fcid-allocation

デフォルトの地域会社 ID リストに FCID を手動で追加するには、**fcid-allocation** コマンドを使用します。デフォルトの地域会社 ID リストから FCID を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcid-allocation area company-id company-id
```

```
no fcid-allocation area company-id company-id
```

シンタックスの説明

area	会社 ID の自動地域リストを変更します。
company-id company-id	会社 ID を設定します。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

FC 標準では、スイッチの Fx ポートに接続されている N ポートに一意の FCID を割り当てる必要があります。使用される FCID 数を保護するため、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチは、特別な割り当て方式を使用します。

一部の Host Bus Adapter (HBA; ホスト バス アダプタ) は、ドメインおよびエリアが同一の FC ID を持つターゲットを検出しない場合があります。スイッチのソフトウェアは、このような動作をしないテスト対象会社 ID のリストを維持しています。これらの HBA には、単一の FCID が割り当てられ、残りにはエリア全体が割り当てられます。

多数のポートを持つスイッチのスケラビリティを高めるため、スイッチのソフトウェアはこの動作を実行する HBA のリストを維持します。ファブリック ログイン中、各 HBA は、pWWN に使用される会社 ID (別名: Organizational Unique Identifier [OUI]) によって識別されます。会社 ID がリストに含まれている N ポートにはエリア全体が割り当てられ、その他のポートには単一の FCID が割り当てられます。割り当てられた FC ID の種類 (エリア全体かまたは単一か) にかかわらず、FCID エントリは永続的に存在します。

例

次に、新しい会社 ID をデフォルトの地域会社 ID リストに追加する例を示します。

```
switch(config)# fc-id allocation area company-id 0x003223
```

fcinterop fcid-allocation

スイッチに Fibre Channel ID (FCID) を割り当てるには、コンフィギュレーション モードで **fcinterop fcid-allocation** コマンドを使用します。スイッチの FCID をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcinterop fcid-allocation {auto | flat | none}
```

```
no fcinterop fcid-allocation {auto | flat | none}
```

シンタックスの説明	auto	単一の FCID を互換性のある Host Bus Adapter (HBA; ホスト バス アダプタ) に割り当てます。
	flat	単一の FCID を割り当てます。
	none	FCID 範囲を割り当てます。

コマンドのデフォルト設定 デフォルトの設定は、FCID の自動割り当てです。

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、スイッチの FCID 割り当て方法を定義します。

例 次に、FCID の割り当てを flat にする例を示します。

```
switch(config)# fcinterop fcid-allocation flat
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show flogi database	Fabric Login (FLOGI) テーブルを表示します。

fcns no-auto-poll

ネーム サーバ データベースでの自動ポーリングをイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **fcns no-auto-poll** コマンドを使用します。

```
fcns no-auto-poll [vsan vsan-id] | [wwn wwn-id]
```

```
no fcns no-auto-poll [vsan vsan-id] | [wwn wwn-id]
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
	wwn wwn-id	(任意) ポート WWN を指定します。フォーマットは、hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、VSAN 2 の自動ポーリングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcns no-auto-poll vsan 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベースおよび統計情報を表示します。

fens proxy-port

ネーム サーバ プロキシを登録するには、コンフィギュレーション モードで **fens proxy-port** コマンドを使用します。

```
fens proxy-port wwn-id vsan vsan-id
```

```
no fens proxy-port wwn-id vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	wwn-id	ポート WWN を指定します。フォーマットは、hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 特定のネーム サーバは、他のネーム サーバのプロキシとなるよう設定できます。ネーム サーバの情報は CLI (コマンドライン インターフェイス) を使用して表示させることができます。ネーム サーバは CLI または Cisco Fabric Manager で表示させることができます。

すべてのネーム サーバの登録要求は、パラメータが登録または変更された同一ポートから送られます。同一ポートから送られない場合、要求は拒否されます。

例 次に、VSAN 2 のプロキシポートを設定する例を示します。

```
switch(config)# fens proxy-port 21:00:00:e0:8b:00:26:d vsan 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fens	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベースおよび統計情報を表示します。

fcns reject-duplicate-pwwn vsan

VSAN の重複 Fibre Channel Name Server (FCNS; ファイバチャネル ネーム サーバ) プロキシを拒否するには、コンフィギュレーション モードで **fcns reject-duplicate-pwwn vsan** コマンドを使用します。

```
fcns reject-duplicate-pwwn vsan vsan-id
```

```
no fcns reject-duplicate-pwwn vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定	ディセーブル	
コマンド モード	コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	なし	
例	次に、VSAN 2 の重複 FCNS pWWN を拒否する例を示します。 switch(config)# fcns reject-duplicate-pwwn vsan 2	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcns	指定の VSAN またはすべての VSAN に対するネーム サーバ データベースおよび統計情報を表示します。

fcping

N ポートに ping を実行するには、EXEC モードで **fcping** コマンドを使用します。

```
fcping {device-alias aliasname | fcid {fc-port | domain-controller-id} | pwwn pwwn-id} vsan vsan-id
[count number [timeout value [usr-priority priority]]]
```

シンタックスの説明	
device-alias <i>aliasname</i>	デバイスエイリアス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
fcid	宛先 N ポートの FCID
<i>fc-port</i>	ポート FCID (フォーマットは <i>0xhhhhhh</i>)
<i>domain-controller-id</i>	宛先スイッチへの接続を確認します。
pwwn <i>pwwn-id</i>	宛先 N ポートのポート World Wide Name (WWN) を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
vsan <i>vsan-id</i>	宛先 N ポートの VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効値は 1 ~ 4093 です。
count <i>number</i>	(任意) 送信フレーム数を指定します。値 0 はフレームを送り続けることを意味します。有効値は 0 ~ 2147483647 です。
timeout <i>value</i>	(任意) タイムアウト値を秒単位で指定します。有効範囲は 1 ~ 10 です。
usr-priority <i>priority</i>	(任意) スイッチファブリックでフレームが受信するプライオリティを指定します。有効値は 0 ~ 1 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ドメインコントローラ ID を得るため、ドメイン ID と FFC を結合します。たとえば、ドメイン ID が *0xda (218)* の場合、結合した ID は *0xffffda* になります。

例 次に、宛先の FCID に **fcping** を実行する例を示します。デフォルトでは、5 フレームが送信されます。

```
switch# fcping fcid 0xd70000 vsan 1
```

次に、**count** オプションを使用して、送信するフレーム数を設定する例を示します。有効範囲は 0 ~ 2147483647 フレームです。値 0 は ping を実行し続けます。

```
switch# fcping fcid 0xd70000 vsan 1 count 10
```

次に、タイムアウト値を設定する例を示します。デフォルトの待機時間は 5 秒です。有効範囲は 1 ~ 10 秒です。

```
switch# fcping fcid 0xd500b4 vsan 1 timeout 10
```

次に、指定した宛先のデバイスエイリアスを使用した **fcping** 操作を表示する例を示します。

```
switch# fcping device-alias x vsan 1
```

fcroute

ファイバチャネル ルートを設定し、ポリシー ルーティングを有効にするには、**fcroute** コマンドを使用します。この設定を削除、または出荷時の状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcroute {fcid [network-mask] interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vig-num/vint-id}
domain domain-id {metric number | remote | vsan vsan-id}}
```

```
no fcroute {fcid network-mask interface {fc slot/port | san-port-channel port | vfc vig-num/vint-id}
domain domain-id {metric number | remote | vsan vsan-id}}
```

シンタックスの説明

<i>fcid</i>	FC ID を指定します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
<i>network-mask</i>	FC ID のネットワーク マスクを指定します。フォーマットは 0x0 ~ 0xffffffff です。
interface	インターフェイスを指定します。
fc <i>slot/port</i>	ファイバチャネル インターフェイスを指定します。
san-port-channel <i>port</i>	SAN ポート チャネル インターフェイスを指定します。
vfc <i>vig-num/vint-id</i>	バーチャル ファイバチャネル インターフェイスを指定します。
domain <i>domain-id</i>	ネクストホップ スイッチのドメインに対するルートを指定します。有効範囲は 1 ~ 239 です。
metric <i>number</i>	ルートのコストを指定します。有効範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのコストは 10 です。
remote	リモート接続している宛先スイッチのスタティック ルートを設定します。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、転送情報をスイッチに割り当て、優先パスのルート マップを有効にします。

例

次に、VSAN 2 のファイバチャネル インターフェイスおよびネクストホップ スイッチのドメインに対するルートを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111211 interface fc3/1 domain 3 vsan 2
```

次に、VSAN 4 の SAN ポート チャネル インターフェイスおよびネクストホップ スイッチのドメインに対するルートを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111211 interface san-port-channel 1 domain 3 vsan 4
```

次に、VSAN 1 のファイバチャネル インターフェイス、ネクストホップ スイッチのドメインに対するルート、およびルートのコストを指定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x031211 interface fc1/1 domain 3 metric 1 vsan 1
```

次に、VSAN 3 のファイバチャネル インターフェイス、ネクストホップ スイッチのドメインに対するルート、およびルートのコストを指定して、リモートで接続している宛先スイッチのスタティック ルートを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcroute 0x111112 interface fc3/1 domain 3 metric 3 remote vsan 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fcroute	ファイバチャネル ルートを表示します。
fcroute-map	優先パスのファイバチャネル ルート マップを指定します。
show fcroute-map	優先パスのルート マップ設定およびステータスを表示します。
fcroute policy fcroute-map	優先パスのファイバチャネル ルート マップを有効にします。

fcs plat-check-global

ファブリック全体での Fabric Configuration Server (FCS) プラットフォームおよびノード名のチェックをイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **fcs plat-check-global** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcs plat-check-global vsan vsan-id
```

```
no fcs plat-check-global vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	プラットフォーム チェックの VSAN (仮想 SAN) ID を 1 ~ 4096 の範囲で指定します。
コマンドのデフォルト設定	なし	
コマンドモード	コンフィギュレーションモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	なし	
例	switch(config)# fcs plat-check-global vsan 2	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs	ファブリック コンフィギュレーション サーバ情報を表示します。

fcs register

Fabric Configuration Server (FCS) アトリビュートを登録するには、コンフィギュレーション モードで **fcs register** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

fcs register

no fcs register

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、FCS アトリビュートを登録する例を示します。

```
switch(config)# fcs register
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs	ファブリック コンフィギュレーション サーバ情報を表示します。

fcs virtual-device-add

Fabric Configuration Server (FCS) からのゾーン情報に関するクエリーに仮想デバイスを含めるには、コンフィギュレーションモードで **fcs virtual-device-add** コマンドを使用します。仮想デバイスを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcs virtual-device-add [vsan-ranges vsan-ids]
```

```
no fcs virtual-device-add [vsan-ranges vsan-ids]
```

シンタックスの説明	vsan-ranges vsan-ids	(任意)VSAN の範囲を 1 つ以上指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定		ディセーブル
コマンドモード		コンフィギュレーションモード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	VSAN の範囲は <i>vsan-ids-vsan-ids</i> のように使用します。複数の範囲を指定する場合は、各範囲をカンマで区切ります。範囲を指定しないと、コマンドはすべての VSAN に適用されます。	
例	次に、VSAN の範囲を 1 つ追加する例を示します。	
	<pre>switch(config)# fcs virtual-device-add vsan-ranges 2-4</pre>	
	次に、VSAN の範囲を複数追加する例を示します。	
	<pre>switch(config)# fcs virtual-device-add vsan-ranges 2-4,5-8</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	show fcs	ファブリック コンフィギュレーション サーバ情報を表示します。

fcsp

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) がイネーブルであるスイッチの特定のインターフェイスに対して、FC-SP 認証モードを設定するには、**fcsp** コマンドを使用します。インターフェイスの FC-SP をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp {auto-active | auto-passive | on | off} [timeout-period]
no fcsp
```

シンタックスの説明

auto-active	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-active モードを設定します。
auto-passive	指定のインターフェイスを認証するため、 auto-passive モードを設定します。
on	指定のインターフェイスを認証するため、 on モードを設定します。
off	指定のインターフェイスを認証するため、 off モードを設定します。
<i>timeout-period</i>	(任意) インターフェイスを再認証するためのタイムアウト期間を指定します。有効範囲は 0 ~ 100000 分です (0 がデフォルト — 認証は実行されません)。

コマンドのデフォルト設定

auto-passive モード

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**fcsp enable** コマンドを使用して FC-SP をイネーブルにする必要があります。

例

次に、スロット 2 のポート 1 のファイバチャネル インターフェイスに対して、認証モードをオンにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fcsp on
switch(config-if)#
```

次に、選択されたインターフェイスを、出荷時の状態 (auto-passive) に戻す例を示します。

```
switch(config-if)# no fcsp
```

次に、選択されたインターフェイスを、FC-SP 認証を開始するように変更する例を示します (ただし、再認証は許可しません)。

```
switch(config-if)# fcsp auto-active 0
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcsp enable	FC-SP をイネーブルにします。
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fcsp dhchap

スイッチの Diffie-Hellman Challenge Handshake Authentication Protocol (DHCHAP) オプションを設定するには、コンフィギュレーションモードで **fcsp dhchap** コマンドを使用します。このコマンドは Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) 機能がイネーブルの場合にのみ使用できます。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp dhchap {devicename switch-wwn password [0 | 7] password |
             dhgroup [0] [1][2][3] [4] | hash [md5 | sha1] | password [0 | 7] password [wwn wwn-id] }
no fcsp dhchap {devicename switch-wwn password [0 | 7] password |
               dhgroup [0 | 1 | 2 | 3 | 4] | hash [md5] [sha1] | password [0 | 7] password [wwn-id] }
```

シンタックスの説明

devicename	ファブリック内の別のデバイスのパスワードを設定します。
<i>switch-wwn</i>	設定するデバイスの World Wide Name (WWN) を提供します。
password	ローカル スイッチに DHCHAP パスワードを設定します。
0	(任意) クリア テキスト パスワードを指定します。
7	(任意) 暗号化されたテキストでパスワードを指定します。
dhgroup	DHCHAP Diffie-Hellman グループ プライオリティ リストを設定します。
0	(任意) Null DH — 交換は実行されません (デフォルト)。
1 2 3 4	(任意) 標準で指定される 1 つ以上のグループを指定します。
hash	優先順位に従って DHCHAP ハッシュ アルゴリズム プライオリティ リストを設定します。
md5	(任意) Message Digest 5 (MD5) ハッシュ アルゴリズムを指定します。
sha1	(任意) SHA-1 ハッシュ アルゴリズムを指定します。
wwn wwn-id	(任意) WWN ID (フォーマットは hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh)

コマンドのデフォルト設定

ディセーブル

コマンド モード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

fcsp dhchap コマンドが表示されるのは、**fcsp enable** コマンドを入力した場合だけです。

ハッシュ アルゴリズムとして SHA-1 を使用すると、Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) または TACACS+ が使用できなくなります。

Diffie-Hellman (DH) グループの設定を変更した場合は、ファブリック内のすべてのスイッチに対して、その変更がグローバルに反映されているかどうかを確認してください。

例

次に、FC-SP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# # fcsp enable
```

次に、SHA-1 ハッシュ アルゴリズムのみを使用する場合の設定例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash sha1
```

次に、MD-5 ハッシュ アルゴリズムのみを使用する場合の設定例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash md5
```

次に、DHCHAP 認証に対して、MD-5 ハッシュ アルゴリズムを使用してから SHA-1 を使用するデフォルトのプライオリティ リストを定義する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap hash md5 sha1
```

次に、MD-5 ハッシュ アルゴリズムを使用してから SHA-1 ハッシュ アルゴリズムを使用する出荷時のデフォルトのプライオリティ リストに戻す例を示します。

```
switch(config)# no fcsp dhchap hash sha1
```

次に、設定された順番で、DH グループ 2、3、および 4 を優先的に使用するよう設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap group 2 3 4
```

次に、ローカル スイッチのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 0 mypassword
```

次に、指定 WWN のデバイスで使用する、ローカル スイッチのクリア テキスト パスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 0 mypassword 30:11:bb:cc:dd:33:11:22
```

次に、ローカル スイッチに対して暗号化フォーマットで入力されるパスワードを設定する例を示します。

```
switch(config)# fcsp dhchap password 7 sfsfdf
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcsp enable	FC-SP をイネーブルにします。
show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp enable

スイッチで Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **fcsp enable** コマンドを使用します。FC-SP 機能がイネーブルであれば、他の FC-SP コマンドを使用できます。FC-SP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

fcsp enable

no fcsp enable

シンタックスの説明	fcsp	スイッチの FC-SP 機能を指定します。
	enable	このスイッチの FC-SP 機能をイネーブルにします。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、FC-SP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# fcsp enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp reauthenticate

ファイバ チャネルまたはバーチャル ファイバ チャネルのインターフェイスを再認証するには、EXEC モードで **fcsp reauthenticate** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp reauthenticate interface { fc slot/port | vfc vfc-num/vint-id }
```

```
no fcsp reauthenticate interface { fc slot/port | vfc vfc-num/vint-id }
```

シンタックスの説明	
interface	再認証を実行するインターフェイスを指定します。
interface fc slot/port	ファイバチャネルインターフェイスをスロットおよびポート番号で指定します。
vfc vfc-num/vint-id	バーチャル ファイバチャネル インターフェイスを、バーチャル インターフェイス グループ 番号およびバーチャルインターフェイス ID で指定します。

コマンドのデフォルト設定 30 秒

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、バーチャル ファイバ チャネル インターフェイスに FCSP 再認証を設定する例を示します。

```
switch# fcsp reauthenticate vfc 1/1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcsp enable	FC-SP をイネーブルにします。
	show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fcsp timeout

Fibre Channel Security Protocol (FC-SP) メッセージのタイムアウト値を設定するには、コンフィギュレーション モードで **fcsp timeout** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fcsp timeout timeout-period
```

```
no fcsp timeout timeout-period
```

シンタックスの説明	<i>timeout-period</i> タイムアウトの期間を指定します。有効範囲は 20 ～ 100 秒です。
-----------	---

コマンドのデフォルト設定	30 秒
--------------	------

コマンド モード	コンフィギュレーション モード
----------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	fcsp timeout コマンドを表示できるのは、 fcsp enable コマンドを入力した場合だけです。
------------	---

例	次に、FCSP タイムアウト値の設定例を示します。
---	---------------------------

```
switch(config)# fcsp enable
switch(config)# fcsp timeout 60
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fcsp enable	FC-SP をイネーブルにします。
	show fcsp	設定された FC-SP 情報を表示します。

fctimer

デフォルトのファイバチャネルタイマーを変更するには、コンフィギュレーションモードで **fctimer** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
fctimer {d_s_tov milliseconds | e_d_tov milliseconds | r_a_tov milliseconds} [vsan vsan-id]
```

```
no fctimer {d_s_tov milliseconds | e_d_tov milliseconds | r_a_tov milliseconds} [vsan vsan-id]
```

シンタックスの説明

d_s_tov milliseconds	Distributed Services のタイムアウト値 (DS_TOV) を指定します。有効値は 5000 ~ 100000 ミリ秒です。
e_d_tov milliseconds	Error Detect のタイムアウト値 (ED_TOV) を指定します。有効値は 1000 ~ 100000 ミリ秒で、デフォルトは 2000 ミリ秒です。
r_a_tov milliseconds	Resolution Allocation タイムアウト値 (RA_TOV) を指定します。有効値は 5000 ~ 100000 ミリ秒で、デフォルトは 10000 ミリ秒です。
vsan vsan-id	(任意) VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンドのデフォルト設定

ファイバチャネルタイマーのデフォルト値は次のとおりです。

- DS_TOV : 30 秒
- ED_TOV : 2 秒
- RA_TOV : 10 秒

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco、Brocade、および McData の FC Error Detect (ED_TOV) と Resource Allocation (RA_TOV) のタイマーは、デフォルトで同一の値に設定されています。必要に応じて、これらを変更することは可能です。FC-SW2 規定に準拠しているため、これらの値はファブリック内の各スイッチで同一の値にする必要があります。

特定の VSAN に異なる TOV 値を設定する場合は、**vsan** オプションを使用します。

例

デフォルトのファイバチャネルタイマーを変更する例を示します。

```
switch(config)# fctimer e_d_tov 5000
switch(config)# fctimer r_a_tov 7000
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fctimer	設定されたファイバチャネルタイマー値を表示します。

fctimer abort

進行中のファイバチャネルタイマー (fctimer) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、コンフィギュレーションモードで **fctimer abort** コマンドを使用します。

fctimer abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、進行中の CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# fctimer abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fctimer distribute	fctimer の CFS 配信をイネーブルにします。
	show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctimer commit

ファブリック内で進行中のファイバチャネル タイマー (fctimer) Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッション関連の未決定コンフィギュレーションを適用するには、コンフィギュレーション モードで **fctimer commit** コマンドを使用します。

fctimer commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、アクティブ ファイバチャネル タイマー コンフィギュレーションへの変更を確定する例を示します。

```
switch(config)# fctimer commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fctimer distribute	fctimer の CFS 配信をイネーブルにします。
	show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctimer distribute

ファイバチャネル タイマー (fctimer) の Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**fctimer distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

fctimer distribute

no fctimer distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**fctimer commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例 次に、デフォルトのファイバチャネル タイマーを変更する例を示します。

```
switch(config)# fctimer distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fctimer commit	ファイバチャネル タイマー コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
	show fctimer	fctimer 情報を表示します。

fctrace

N ポートへのルートをトレースするには、EXEC モードで **fctrace** コマンドを使用します。

```
fctrace {device-alias aliasname | fcid fcid | pwwn pwwn-id} vsan vsan-id [timeout seconds]
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
device-alias <i>aliasname</i>		デバイスエイリアス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
fcid <i>fcid</i>		宛先 N ポートの Fibre Channel (FC) ID で、フォーマットは 0xhhhhhh です。
pwwn <i>pwwn-id</i>		宛先 N ポートの PWWN を指定します。フォーマットは、 hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。
vsan <i>vsan-id</i>		VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
timeout <i>seconds</i>		タイムアウト値を設定します。有効範囲は 1 ~ 10 です。

コマンドのデフォルト設定 デフォルトでは、タイムアウトまでの待機時間は 5 秒に設定されています。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、VSAN 1 の指定 FCID へのルートをトレースする例を示します。

```
switch# fctrace fcid 0x660000 vsan 1
```

次に、VSAN 1 の指定デバイスエイリアスへのルートをトレースする例を示します。

```
switch# fctrace device-alias x vsan 1
```

fdmi suppress-updates

FDMI アップデートを停止するには、コンフィギュレーション モードで **fdmi suppress-updates** コマンドを使用します。

```
fdmi suppress-updates vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定	デフォルトでは、FDMI アップデートは停止されません。	
コマンド モード	コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	なし	
例	次に、VSAN 1 の FDMI アップデートを停止する例を示します。 switch# fdmi suppress-updates vsan 1	

feature fcoe

FC_FEATURES_PKG ライセンスのインストール後にバーチャルおよびネイティブのファイバチャネルインターフェイスをイネーブルにするには、**feature fcoe** コマンドを使用します。ファイバチャネルインターフェイスをディセーブルにして、FC_FEATURES_PKG ライセンスをライセンスマネージャソフトウェアに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe

no feature fcoe

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 FCoE はディセーブルです。

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン FCoE 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーションを保存してからスイッチをリブートする必要があります。

例 次に、スイッチの FCoE をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe
```

fspf config

VSAN 全体の Fabric Shortest Path First (FSPF) 機能を設定するには、コンフィギュレーション モードで **fspf config** コマンドを使用します。このコマンドを使用すると、FSPF コンフィギュレーション モードになります。このモードでは 4 つのコマンドを使用できます (それぞれに **no** 形式があります)。

VSAN 全体の FSPF コンフィギュレーションを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf config vsan vsan-id
```

```
min-ls-arrival ls-arrival-time  
min-ls-interval ls-interval-time  
region region-id  
spf {hold-time spf-holdtime | static}
```

```
no min-ls-arrival  
no min-ls-interval  
no region  
no spf {hold-time | static}
```

```
no fspf config vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
min-ls-arrival ls-arrival-time	ドメインの新しいリンク状態更新をスイッチが受け入れるまでの、最小時間を指定します。パラメータ <i>ls-arrival-time</i> は、ミリ秒単位の整数の値で指定します。有効値は 0 ~ 65535 です。
min-ls-interval ls-interval-time	ドメインの新しいリンク状態更新がスイッチで生成されるまでの、最小時間を指定します。パラメータ <i>ls-interval-time</i> は、ミリ秒単位の整数の値で指定します。有効値は 0 ~ 65535 です。
region region-id	スイッチが属している自律領域を指定します。バックボーン領域は <i>region-id=0</i> で、パラメータ <i>region-id</i> は符号のない整数の値で、範囲は 0 ~ 255 です。
spf	Shortest Path First (SPF) ルート計算に関連するパラメータを指定します。
hold-time spf-holdtime	2 つの連続した SPF 計算の間の時間を指定します。時間が短い場合、変更に対してルーティング処理が速くなりますが、CPU の使用率は大きくなります。パラメータ <i>spf-holdtime</i> は、ミリ秒単位の整数の値で指定します。有効範囲は 0 ~ 65535 です。
static	スタティックな SPF を強制的に計算します。

コマンドのデフォルト設定

FSPF コンフィギュレーション モードでは、デフォルトはダイナミック SPF 計算です。

spf hold-time を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 0 です。

min-ls-arrival を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 1000 ミリ秒です。

min-ls-interval を設定する場合、FSPF のデフォルト値は 5000 ミリ秒です。

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **fspf config** コマンドを使用すると指定の VSAN の FSPF コンフィギュレーションモードを開始できます。FSPF コンフィギュレーションモードでは、コマンドによって、この VSAN の FSPF が設定されます。

例 次に、VSAN 1 のスタティック SPF コンフィギュレーションを設定し、VSAN 3 の FSPF コンフィギュレーションを削除する例を示します。

```
switch(config)# fspf config vsan 1
switch(fspf-config)# spf static
switch(fspf-config)# exit
switch(config)#
switch(config)# no fspf config vsan 3
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
	fspf enable	指定 VSAN の FSPF ルーティング プロトコルをイネーブルにします。
	fspf cost	指定 VSAN の選択されたインターフェイスのコストを設定します。
	fspf hello-interval	VSAN 内のリンク状態を確認する hello メッセージのインターバルを指定します。
	fspf passive	指定 VSAN の指定インターフェイスの FSPF プロトコルをディセーブルにします。
	fspf retransmit	指定 VSAN における未確認応答リンク状態アップデートの再送信間隔を指定します。

fspf cost

Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) のリンク コストを設定するには、**fspf cost** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf cost link-cost vsan vsan-id
```

```
no fspf cost link-cost vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	link-cost	FSPF リンク コストを秒で入力します。有効範囲は 1 ~ 65535 です。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定	1 ギガビット / 秒のインターフェイスでは 1000 秒 2 ギガビット / 秒のインターフェイスでは 500 秒
--------------	---

コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション サブモード
---------	----------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは、バーチャルファイバチャネルインターフェイスには使用できません。 FSPF は、ファブリック内のすべてのスイッチのリンク状態を追跡し、データベースで各リンクとコストを関連付け、さらに最小コストでのパスを選択します。インターフェイスに関連付けられたコストは、 fspf cost コマンドを使用すれば変更可能で、FSPF ルート選択が実装されます。
------------	--

例	次に、FCIP インターフェイスで FSPF リンク コストを設定する例を示します。
---	--

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf cost 5000 vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
	show interface fc	指定したファイバチャネルインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fspf dead-interval

hello メッセージが受信されず、ネイバーがダウンしたと判断されるまでの最大インターバルを設定するには、**fspf dead-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf dead-interval seconds vsan vsan-id
```

```
no fspf dead-interval seconds vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	seconds	Fabric Shortest Path First (FSPF) のデッドインターバルを秒で指定します。有効範囲は 2 ~ 65535 です。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 80 秒

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、バーチャル ファイバチャネル インターフェイスには使用できません。ISL (スイッチ間リンク) 両端のポートで、この値を同じにする必要があります。



注意

設定したデッド時間間隔が hello 時間間隔より短い場合、コマンドプロンプトでエラーが報告されます。

例 次に、hello メッセージの最大インターバルを 400 秒に設定する例を示します。400 秒が経過すると、ネイバーはダウンしたとみなされます。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf dead-interval 4000 vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
	show interface fc	指定したファイバチャネル インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fspf enable

VSAN の Fabric Shortest Path First (FSPF) をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **fspf enable** コマンドを使用します。FSPF ルーティングプロトコルをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf enable vsan vsan-id
```

```
no fspf enable vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	-----------------------------------

コマンドのデフォルト設定	イネーブル
--------------	-------

コマンド モード	コンフィギュレーション モード
----------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	このコマンドは VSAN 上で FSPF をグローバルに設定します。
------------	------------------------------------

例	次に、VSAN 5 の FSPF をイネーブルにし、VSAN 7 の FSPF をディセーブルにする例を示します。
---	---

```
switch## configure
switch(config)# fspf enable vsan 5
switch(config)# no fspf enable vsan 7
```

関連コマンド	コマンド	説明
	fspf config vsan	VSAN の FSPF 機能を設定します。
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。

fspf hello-interval

リンク状態を確認するには、**fspf hello-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf hello-interval seconds vsan vsan-id
```

```
no fspf hello-interval seconds vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	hello-interval seconds	Fabric Shortest Path First (FSPF) の hello インターバルを秒で指定します。有効範囲は 2 ~ 65535 です。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 20 秒

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、バーチャルファイバチャネル インターフェイスには使用できません。
このコマンドは、指定の Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの FSPF を設定します。ISL (スイッチ間リンク) 両端のポートで、この値を同じにする必要があります。

例 次に、VSAN 1 の hello インターバルを 3 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1  
switch(config-if)# fspf hello-interval 3 vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。

fspf passive

選択したインターフェイスの Fabric Shortest Path First (FSPF) プロトコルをディセーブルにするには、**fspf passive** コマンドを使用します。デフォルトの状態に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf passive vsan vsan-id
```

```
no fspf passive vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
---------------------	-----------------------------------

コマンドのデフォルト設定

FSPF はイネーブルです。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、バーチャルファイバチャネルインターフェイスには使用できません。

デフォルトでは、FSPF はすべての E ポートおよび TE ポートでイネーブルです。FSPF をディセーブルにするには、**fspf passive** コマンドを使用してインターフェイスをパッシブに設定します。プロトコルが正常に動作するためには、ISL の両端のポートで FSPF をイネーブルにする必要があります。

例

次に、VSAN 1 に関して、指定インターフェイスの FSPF プロトコルをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf passive vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
show interface fc	指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

fspf retransmit-interval

未確認応答リンク状態アップデートがインターフェイス上で送信されるまでの時間を指定するには、**fspf retransmit-interval** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
fspf retransmit-interval seconds vsan vsan-id
no spf retransmit-interval seconds vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	seconds	Fabric Shortest Path First (FSPF) の再送信インターバルを秒で指定します。有効値は 1 ~ 65535 です。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 5 秒

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、バーチャル ファイバチャネル インターフェイスには使用できません。ISL (スイッチ間リンク) 両端のポートで、この値を同じにする必要があります。

例 次に、未確認応答リンク状態アップデートが VSAN 1 のインターフェイス上で送信されるまでの間隔を 6 秒に指定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/1
switch(config-if)# fspf retransmit-interval 6 vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show fspf interface	選択した各インターフェイスの情報を表示します。
	show interface fc	指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

in-order-guarantee

順次配信をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **in-order-guarantee** コマンドを使用します。順次配信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
in-order-guarantee [vsan vsan-id]
```

```
no in-order-guarantee [vsan vsan-id] [,] [-]
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
	[,] [-]	(任意) カンマで区切って複数の VSAN を入力することも、またダッシュを使用して VSAN の範囲を入力することも可能です。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン データ フレームの順次配信は、送信元の送信順と同一の順番で宛先にフレーム配信することを保証します。

例 次に、スイッチ全体の順次配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config) # in-order-guarantee
```

次に、スイッチ全体の順次配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config) # no in-order-guarantee
```

次に、特定 VSAN の順次配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config) # in-order-guarantee vsan 3452
```

次に、特定 VSAN の順次配信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config) # no in-order-guarantee vsan 101
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show in-order-guarantee	in-order-guarantee ステータスを表示します。

interface fc

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのファイバチャネル インターフェイスを設定するには、コンフィギュレーション モードで **interface fc** コマンドを使用します。**interface fc** コマンドを使用すると、インターフェイス コンフィギュレーション モードになります。このモードでは 5 つのコマンドを使用できます（それぞれに **no** 形式があります）。

デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

interface fc *slot/port*

```
channel-group {group-id [force] | auto}
fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
fcsp {auto-active | auto-passive | on | off} [timeout-period]
fspf {cost link-cost vsan vsan-id | dead-interval seconds vsan vsan-id | hello-interval seconds vsan vsan-id | passive vsan vsan-id | retransmit-interval seconds vsan vsan-id}
switchport
```

no interface fc *slot/port*

```
no channel-group {group-id [force] | auto}
no fcdomain rcf-reject vsan vsan-id
no fcsp {auto-active | auto-passive | on | off}
no fspf {cost link_cost vsan vsan-id | dead-interval seconds vsan vsan-id | hello-interval seconds vsan vsan-id | passive vsan vsan-id | retransmit-interval seconds vsan vsan-id}
switchport
```

シンタックスの説明

<i>slot/port</i>	スロット番号およびポート番号を指定します。
channel-group	ポートチャネルに追加、またはポートチャネルから削除します。
<i>group-id</i>	ポートチャネルグループ番号を 1 ~ 128 の間で指定します。
force	強制的にポートを追加します。
auto	ポートチャネルの自動作成をイネーブルにします。
fcdomain	インターフェイスのサブモードを開始します。
rcf-reject	Reconfigure Fabric (RCF) 拒否フラグを設定します。
vsan vsan-id	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
fspf	Fabric Shortest Path First (FSPF) パラメータを設定します。
cost link-cost	FSPF リンクコストを設定します。有効範囲は 1 ~ 65535 です。
dead-interval seconds	FSPF のデッドインターバルを秒で設定します。有効範囲は 2 ~ 65535 です。
hello-interval seconds	FSPF の hello インターバルを設定します。有効範囲は 1 ~ 65535 です。
passive	インターフェイスの FSPF をディセーブル、またはイネーブルにします。
retransmit-interval seconds	FSPF の再送信インターバルを秒で設定します。有効範囲は 1 ~ 65535 です。

コマンドのデフォルト設定

ディセーブル

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力すると、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface spacefc1/1 space-space5 space, spacefc2/5 space-space7
```

ポート番号の割り当てについては、『Cisco Nexus 5000 シリーズ CLI Configuration Guide』を参照してください。

インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

channel-group auto コマンドでは、ポート チャネルの自動作成がイネーブルになります。ポートチャネルの自動作成がインターフェイスに対してイネーブルになっている場合、古いソフトウェアバージョンにダウングレードする前、または手動で設定されたチャネルグループのインターフェイスを設定する前に、まずこのコンフィギュレーションをディセーブルにする必要があります。

例

次に、ファイバチャネル インターフェイス 3 のポート 1 ～ 4 を設定する例を示します。

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config)# int fc3/1 - 4
```

次に、スロット 3 のポート 1 のファイバチャネル インターフェイスをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc3/1
switch(config-if)# no shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。

interface san-port-channel

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチの SAN ポート チャネル インターフェイスを設定するには、コンフィギュレーション モードで **interface san-port-channel** コマンドを使用します。**interface san-port-channel** コマンドを使用すると、インターフェイス コンフィギュレーション モードになります。このモードでは 6 つのコマンドを使用できます（それぞれに **no** 形式があります）。

デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface san-port-channel port
  description line
  shutdown [force]
  switchport {
    mode { E | auto}|
    speed { 1000 | 2000 | 4000 | auto}|
    trunk { allowed vsan { vsan-id | add vsan-id | all}| mode { auto | on | off}}
  }

no interface san-port-channel port
  no description
  no shutdown
  no switchport {
    no mode |
    no speed |
  }
  no trunk { allowed vsan { vsan-id | add vsan-id | all}| mode }
```

シンタックスの説明	
port	ポート番号を指定します。
description line	インターフェイスを説明するテキスト行を入力します。
shutdown	インターフェイスの状態を管理上のダウンに変更します。
force	インターフェイスの状態を管理上のダウンに強制的に変更します。
switchport	SAN ポート チャネルの設定パラメータを入力します。

コマンドのデフォルト設定 デイセーブル

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

例 次に、SAN ポート チャネル インターフェイス 3 の設定例を示します。

```
switch(config)# interface san-port-channel 3
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
	shutdown	インターフェイスをデイセーブルおよびイネーブルにします。

interface vig

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチに VIG (バーチャル インターフェイス グループ) を設定するには、コンフィギュレーション モードで **interface vig** コマンドを使用します。**interface vig** コマンドを使用すると、インターフェイス コンフィギュレーション モードになります。このモードでは 1 つのコマンド (およびその **no** 形式) を使用できます。

デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vig vig-num
  bind interface ethernet slot/port

no interface vig vig-num
  no bind interface ethernet slot/port
```

シンタックスの説明		
vig-num	VIG 番号を指定します。	
bind interface	この VIG に関連付けるインターフェイスを指定します。	
ethernet slot/port	物理イーサネット インターフェイスのスロットおよびポートを指定します。	

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、VIG (バーチャル インターフェイス グループ) を作成し (まだ作成されていない場合)、その指定 VIG のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

例

次に、バーチャル インターフェイス グループ 3 を作成し、物理イーサネット インターフェイスと関連付ける例を示します。

```
switch(config)# interface vig 3
switch(config-if)# bind interface ethernet 1/15
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vig	指定した VIG の設定を表示します。

interface vfc

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのバーチャル ファイバチャネル インターフェイスを設定するには、コンフィギュレーション モードで **interface vfc** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vfc vig-num/vint-id
  description line
  shutdown [force]
  switchport {mode F}

no interface vfc vig-num/vint-id
  no description
  no shutdown
  no switchport mode
```

シンタックスの説明

<i>vig-num/vint-id</i>	VIG 番号およびバーチャル インターフェイス ID を指定します。
description line	インターフェイスを説明するテキスト行を入力します。
shutdown	インターフェイスの状態を管理上のダウンに変更します。
switchport mode F	バーチャル ファイバチャネル インターフェイスのモードを指定します。

コマンドのデフォルト設定

ディセーブル

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力すると、インターフェイスの範囲を指定できます。

```
interface vfc1/1,vfc2/1
```

ポート番号の割り当てについては、『Cisco Nexus 5000 シリーズ CLI Configuration Guide』を参照してください。

インターフェイスをイネーブルにするには、**no shutdown** コマンドを使用します。

例

次に、バーチャル ファイバチャネル インターフェイス 3 のポート 1 を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc3/1
```

次に、バーチャル ファイバチャネル インターフェイスをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface vfc3/1
switch(config-if)# no shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。
shutdown	インターフェイスをディセーブルおよびイネーブルにします。

logging abort

進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、コンフィギュレーションモードで **logging abort** コマンドを使用します。

logging abort

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、進行中のロギング CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。

```
switch(config)# logging abort
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング情報を表示します。

logging commit

ファブリック内で進行中のロギング Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関する未決定コンフィギュレーションを適用するには、コンフィギュレーション モードで **logging commit** コマンドを使用します。

logging commit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、アクティブ ロギング コンフィギュレーションへの変更を確定する例を示します。

```
switch(config)# logging commit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング情報を表示します。

logging distribute

ロギングの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**logging distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

logging distribute

no logging distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**logging commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例 次に、ロギング コンフィギュレーションの変更を配信する例を示します。

```
switch(config)# logging distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	logging commit	ロギング コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
	show logging	ロギング情報を表示します。

member (FC エイリアス コンフィギュレーション サブモード)

VSAN のファイバチャネル エイリアスにメンバー名を追加するには、FC エイリアス コンフィギュレーション サブモードで **member** コマンドを使用します。ファイバチャネル エイリアスからメンバー名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port-number | fcid fc-id | fwwn
fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn pwwn-id |
symbolic-nodename nodename}
```

```
no member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port-number | fcid fc-id |
fwwn fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn pwwn-id |
symbolic-nodename nodename}
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
device-alias <i>aliasname</i>	<i>aliasname</i>	メンバー デバイス エイリアスを指定します。最大 64 文字まで可能です。
domain-id <i>domain-id</i>	<i>domain-id</i>	メンバー ドメイン ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 239 です。
fcid <i>fc-id</i>	<i>fc-id</i>	メンバー FC ID を指定します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
fwwn <i>fwwn-id</i>	<i>fwwn-id</i>	メンバー fWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
interface fc <i>slot/port</i>	<i>slot/port</i>	メンバー インターフェイス ID を指定します。
swwn <i>swwn-id</i>	<i>swwn-id</i>	(任意) メンバー sWWN ID を指定します。形式は、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。 <i>h</i> は 16 進数です。
port-number <i>port-number</i>	<i>port-number</i>	0 ~ 255 の範囲でポート番号を指定します。
pwwn <i>pwwn-id</i>	<i>pwwn-id</i>	メンバー pWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。 <i>h</i> は 16 進数です。
symbolic-nodename <i>nodename</i>	<i>nodename</i>	メンバー シンボル ノード名を指定します。最大 255 文字まで可能です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード FC エイリアス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、*samplealias* というエイリアスにメンバーを追加する例を示します。

```
switch(config)# fcalias name samplealias
```

次に、メンバーのファイバチャネル インターフェイスを定義する例を示します。

```
switch(switch(config-fcalias)# member interface fc3/1
```

■ member (FC エイリアス コンフィギュレーション サブモード)

次に、指定のメンバーを削除する例を示します。

```
switch(config-fcalias)# no member interface fc3/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcalias name	エイリアスを設定します。
show fcalias	エイリアスのメンバー名情報を表示します。

member (ゾーン コンフィギュレーション サブモード)

ファイバチャネルゾーンにメンバー名を追加するには、ゾーン コンフィギュレーション サブモードで **member** コマンドを使用します。ゾーンからメンバー名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port | fcalias alias-name | fcid
fc-id | fwwn fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn pwwn-id
[lun lun-id] | symbolic-nodename nodename}
```

```
no member {device-alias aliasname | domain-id domain-id port-number port | fcid fc-id | fwwn
fwwn-id | interface fc slot/port [domain-id domain-id | swwn swwn-id] | pwwn pwwn-id [lun
lun-id] | symbolic-nodename nodename}
```

シンタックスの説明

device-alias <i>aliasname</i>	メンバー デバイス エイリアスを指定します。最大 64 文字まで可能です。
lun <i>lun-id</i>	メンバー Logical Unit Number (LUN) ID を指定します。フォーマットは、 <i>0xhhhh[:hhhh[:hhhh[:hhhh]]]</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
domain-id <i>domain-id</i>	メンバー ドメイン ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 239 です。
alias-name	FC エイリアス名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
port-number <i>port</i>	メンバー ポート番号を指定します。有効範囲は 0 ~ 255 です。
fcid <i>fc-id</i>	メンバー FC ID を指定します。フォーマットは、 <i>0xhhhhhh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
fwwn <i>fwwn-id</i>	メンバー fWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
interface fc <i>slot/port</i>	メンバー インターフェイス ID を指定します。
swwn <i>swwn-id</i>	メンバー sWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> で、 <i>h</i> は 16 進数です。
pwwn <i>pwwn-id</i>	メンバー pWWN ID を指定します。フォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。 <i>h</i> は 16 進数です。
symbolic-nodename <i>nodename</i>	メンバー シンボル ノード名を指定します。最大 255 文字まで可能です。

コマンドのデフォルト設定

このコマンドは、ゾーン コンフィギュレーション サブモードとゾーンセットゾーン コンフィギュレーション サブモードの両方で使用できます。

コマンド モード

ゾーン コンフィギュレーション サブモードおよびゾーンセットゾーン コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ゾーンセットプロンプトからゾーンにメンバーを追加する必要がある場合のみ、ゾーンセットゾーンのメンバーを作成します。

■ member (ゾーンコンフィギュレーションサブモード)

例

次に、VSAN 1 の zs1 というゾーンにメンバーを追加する例を示します。

```
switch(config)# zone name zs1 vsan 1
switch(config-zone)# member fcid 0x111112
```

次に、VSAN 1 の Zoneset1 というゾーンセットにゾーンを追加する例を示します。

```
switch(config)# zoneset name ZoneSet1 vsan 1
switch(config-zoneset-zone)# member fcid 0x111112
```

次に、ファイバチャネルインターフェイス メンバーをゾーンに割り当てる例を示します。

```
switch(config)# zoneset name ZoneSet1 vsan 1
switch(config-zoneset-zone)# member interface fc 3/1
```

次に、指定デバイスをゾーンから削除する例を示します。

```
switch(config-zoneset-zone)# no member interface fc 3/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
zoneset (コンフィギュレーションサブモード)	ゾーンセットの名前の指定に使用されます。
zone name (ゾーンセット コンフィギュレーションサブモード)	ゾーンセットのゾーンを設定します。
show zoneset	ゾーンセット情報を表示します。

member (ゾーンセット コンフィギュレーション サブモード)

ゾーンセット メンバーを設定するには、ゾーンセット コンフィギュレーション サブモードで **member** コマンドを使用します。ゾーンセット メンバーを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

member *member-name*

no member *member-name*

シンタックスの説明	<i>member-name</i> メンバー名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
-----------	--

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	ゾーンセット コンフィギュレーション サブモード
---------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例	次に、メンバー ゾーンをゾーンセットに追加する例を示します。 <pre>switch(config)# zoneset name Zoneset1 vsan 10 switch(config-zoneset)# member ZoneA</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。
	zoneset name	ゾーンセットを作成します。

npiv enable

スイッチ上のすべての VSAN の N ポート ID バーチャライゼーション (NPIV) をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **npiv enable** コマンドを使用します。NPIV をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

npiv enable

no npiv enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン NPIV は、単一 N ポートに複数の ポート ID を割り当てる手段を提供します。この機能を使用すると、N ポート上の複数のアプリケーションに異なる ID を使用したり、アクセス コントロール、ゾーニング、ポート セキュリティをアプリケーション レベルで実装できます。

スイッチ上のすべての VSAN に対して NPIV をグローバルでイネーブルにし、NPIV 対応のアプリケーションが複数の N ポート ID を使用できるようにする必要があります。

例 次に、スイッチのすべての VSAN の NPIV をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# npiv enable
```

次に、スイッチのすべての VSAN の NPIV をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no npiv enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface	インターフェイス設定を表示します。

npv enable

N ポート バーチャライゼーション (NPV) モードをイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **npv enable** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

npv enable

no npv enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン NPV モードをイネーブルにすると、インターフェイスに関連したスイッチ コンフィギュレーションが消去され、スイッチは再起動します。スイッチは NPV モードで再起動します。NPV の設定および確認コマンドは、NPV がスイッチでイネーブルの場合にのみ、使用できます。NPV モードをディセーブルにした場合、関連するすべての設定が自動的に消去され、スイッチは再起動します。

例 NPV モードをイネーブルにする例を示します。

```
switch# config
switch(config)# npv enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show npv status	NPV の現在のステータスを表示します。

port-security

ポート セキュリティ機能を設定して侵入試行を拒否するには、コンフィギュレーション モードで **port-security** コマンドを使用します。このコマンドを否定するか、または出荷時の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
port-security {activate vsan vsan-id [force | no-auto-learn] | auto-learn vsan vsan-id | database vsan vsan-id }
```

```
no port-security {activate vsan vsan-id [force | no-auto-learn] | auto-learn vsan vsan-id | database vsan vsan-id }
```

シンタックスの説明

activate	指定 VSAN のポート セキュリティ データベースをアクティブにして、自動学習機能を自動的にイネーブルにします。
auto-learn	指定した VSAN で自動学習をイネーブルにします。
database	指定した VSAN でポート セキュリティ データベース コンフィギュレーション モードを開始します。
vsan vsan-id	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
force	(任意) データベースを強制的にアクティブにします。
no-auto-learn	(任意) ポート セキュリティ データベースの自動学習機能をディセーブルにします。

コマンドのデフォルト設定

ディセーブル

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ポートセキュリティ機能をアクティブにすると、**auto-learn** オプションも自動的にイネーブルになります。ポートセキュリティ機能をアクティブにし、自動学習をディセーブルにするには、**port-security activate vsan number no-auto-learn** コマンドを使用します。この場合、手動でポートセキュリティ データベースを読み込んで個別に各ポートの安全性を確保する必要があります。

auto-learn オプションが VSAN でイネーブルの場合、**force** オプションを使用しないとその VSAN のデータベースをアクティブにできません。

例

次に、指定 VSAN のポートセキュリティ データベースをアクティブにして自動学習を自動的にディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# port-security activate vsan 1
```

次に、指定 VSAN のポートセキュリティ データベースを非アクティブにして自動学習を自動的にディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no port-security activate vsan 1
```

次に、VSAN 1 のポート セキュリティ データベースで自動学習機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# port-security activate vsan 1 no-auto-learn
```

次に、自動学習機能をイネーブルにして、VSAN 1 にアクセス可能なデバイスについてスイッチが学習できるようにする例を示します。これらのデバイスはポート セキュリティ アクティブ データベースに記録されます。

```
switch(config)# port-security auto-learn vsan 1
```

次の例では、自動学習機能をディセーブルにして、スイッチにアクセスする新規デバイスについての学習をスイッチが停止するようにします。

```
switch(config)# no port-security auto-learn vsan 1
```

次に、指定 VSAN のポート セキュリティ データベース モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# port-security database vsan 1  
switch(config-port-security)#
```

次に、競合が生じても、VSAN 1 ポート セキュリティ データベースを強制的にアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# port-security activate vsan 1 force
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show port-security database</code>	設定されたポートセキュリティ情報を表示します。

port-security abort

進行中のポート セキュリティ Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションを廃棄するには、コンフィギュレーション モードで **port-security abort** コマンドを使用します。

```
port-security abort vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定	なし	
コマンド モード	コンフィギュレーション モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	なし	
例	次に、進行中のポート セキュリティ CFS 配信セッションを廃棄する例を示します。 <pre>switch(config)# port-security abort vsan 33</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	port-security distribute	ポート セキュリティの CFS 配信をイネーブルにします。
	show port-security	ポート セキュリティ情報を表示します。

port-security commit

ファブリック内で進行中のポートセキュリティ Cisco Fabric Services (CFS) 配信セッションに関する未決定コンフィギュレーションを適用するには、コンフィギュレーション モードで **port-security commit** コマンドを使用します。

```
port-security commit vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	コンフィギュレーション モード
---------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例	次に、アクティブ ポートセキュリティ コンフィギュレーションへの変更を確定する例を示します。
---	--

```
switch(config)# port-security commit vsan 13
```

関連コマンド	コマンド	説明
	port-security distribute	ポートセキュリティの CFS 配信をイネーブルにします。
	show port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

port-security database

ポートセキュリティ データベースをコピーする場合、またはポートセキュリティ データベース内の差異を表示する場合は、EXEC モードで **port-security database** コマンドを使用します。

```
port-security database {copy | diff {active | config}} vsan vsan-id
```

シンタックスの説明		
copy		アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースにコピーします。
diff		アクティブ ポート セキュリティ データベースとコンフィギュレーション ポート セキュリティ データベースの差異を表示します。
active		アクティブ データベースをコンフィギュレーション データベースに書き込みます。
config		コンフィギュレーション データベースをアクティブ データベースに書き込みます。
vsan vsan-id		VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アクティブ データベースが空の場合、ポートセキュリティ データベースは空です。競合を解消するには、**port-security database diff active** コマンドを使用します。

例 次に、設定されているデータベースにアクティブ データベースをコピーする例を示します。

```
switch# port-security database copy vsan 1
```

次に、アクティブ データベースとコンフィギュレーション データベースの差異を表示する例を示します。

```
switch# port-security database diff active vsan 1
```

次に、コンフィギュレーション データベースとアクティブ データベースの差異に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# port-security database diff config vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	port-security database	ポートセキュリティ データベース間の差異についての情報をコピーし、表示します。
	show port-security database	設定されたポートセキュリティ情報を表示します。

port-security distribute

ポートセキュリティの Cisco Fabric Services (CFS) 配信をイネーブルにするには、**port-security distribute** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

port-security distribute

no port-security distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ファイバチャネル タイマーの変更をファブリックに配信する前に、**port-security commit** コマンドを使用して、コンフィギュレーションへの一時的な変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定する必要があります。

例 次に、ポートセキュリティ コンフィギュレーションをファブリックに配信する例を示します。

```
switch(config)# port-security distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	port-security commit	ポートセキュリティ コンフィギュレーションの変更をアクティブ コンフィギュレーションに確定します。
	show port-security	ポートセキュリティ情報を表示します。

port-security enable

ポート セキュリティをイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **port-security enable** コマンドを使用します。ポート セキュリティをディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

port-security enable

no port-security enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **port-security enable** コマンドを入力すると、ポート セキュリティ設定用の他のコマンドがイネーブルになります。

例 次に、ポート セキュリティをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# port-security enable
```

次に、ポート セキュリティをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no port-security enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show port-security	ポート セキュリティ情報を表示します。

port-track enable

間接的なエラーに関するポート トラッキングをイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **port-track enable** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

port-track enable

no port-track enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ディセーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 追跡されたポートがダウンになると、ソフトウェアはリンクされたポートをダウンにします。追跡されたポートが障害から復旧して再度アップになると、リンクされたポートも自動的にアップになります（特に別の設定がないかぎり）。

例 次に、ポート トラッキングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# port-track enable
```

次に、ポート トラッキングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no port-track enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show interface fc	指定したファイバ チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
	show interface san-port-channel	指定の SAN ポート チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

port-track force-shut

追跡されたポートを強制的にシャットダウンするには、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードで **port-track force-shut** コマンドを使用します。ポート トラッキングを再度イネーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

port-track force-shut

no port-track force-shut

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 追跡されたポートが復旧しても、リンクされたポートをダウンのままにするには、**port-track force-shut** コマンドを使用します。必要になったときは、**no port-track force-shut** コマンドを使用して明示的にポートをアップにする必要があります。

例 次に、追跡中のインターフェイス（複数可）を強制的にシャットダウンする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/2
switch(config-if)# no port-track force-shut
```

関連コマンド	コマンド	説明
	port-track enable	ポート トラッキングをイネーブルにします。
	show interface fc	指定したファイバチャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
	show interface san-port-channel	指定の SAN ポート チャネル インターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

port-track interface

特定インターフェイスのポート トラッキングをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションサブモードで **port-track interface** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
port-track interface {fc slot/port | san-port-channel port} [vsan vsan-id]
```

```
no port-track interface {fc slot/port | san-port-channel port} [vsan vsan-id]
```

シンタックスの説明		
<code>fc slot/port</code>		ファイバチャネルインターフェイスを指定します。
<code>san-port-channel port</code>		SAN ポートチャネルインターフェイスを指定します。有効範囲は 1 ~ 128 です。
<code>vsan vsan-id</code>		(任意) VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード インターフェイス コンフィギュレーションサブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インターフェイスが追跡中のポートがダウン状態になった場合、インターフェイスもダウン状態になります。追跡されたポートが復旧すると、リンクされているインターフェイスも復旧します。リンクされたインターフェイスをダウンのままにするには、**port-track force-shut** コマンドを使用します。

例 次に、特定インターフェイスのポート トラッキングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/3
switch(config-if)# port-track interface san-port-channel 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	port-track enable	ポートトラッキングをイネーブルにします。
	port-track force-shut	ポートトラッキングのインターフェイスを強制的にシャットダウンします。
	show interface fc	指定したファイバチャネルインターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。
	show interface san-port-channel	指定の SAN ポートチャネルインターフェイスの設定およびステータス情報を表示します。

purge fcdomain fcid

永続的な FCID を消去するには、EXEC モードで **purge fcdomain fcid** コマンドを使用します。

```
purge fcdomain fcid vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN (仮想 SAN) ID の FCID が消去されることを示します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
------------------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定	なし
---------------------	----

コマンドモード	EXEC モード
----------------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
-------------------	----

例	次に、VSAN 4 内にあるすべてのダイナミックな未使用 FCID を消去する例を示します。
----------	--

```
switch# purge fcdomain fcid vsan 4
```

次に、VSAN 4、5、6 内にあるすべてのダイナミックな未使用 FCID を消去する例を示します。

```
switch# purge fcdomain fcid vsan 4-6
```

rlir preferred-cond fcid

Registered Link Incident Report (RLIR) フレームを優先的に受信するホストを指定するには、コンフィギュレーション モードで **rlir preferred-cond fcid** コマンドを使用します。優先的に受信するホストを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
rlir preferred-cond fcid fc-id vsan vsan-id
```

```
no rlir preferred-cond fcid fc-id vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

fcid <i>fc-id</i>	FC ID を指定します。フォーマットは 0xhhhhhh です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

デフォルトでは、登録機能が「always receive」に設定されているホストがない場合、スイッチは登録機能が「conditionally receive」に設定されている VSAN のホストの 1 つに RLIR フレームを送信します。

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スイッチが優先ホストに RLIR フレームを送信するのは、次の条件が満たされた場合だけです。

- RLIR に関して、登録機能が「always receive」に設定されているホストが VSAN 内にない。VSAN に「always receive」として登録されているホストが 1 つまたは複数ある場合、RLIR はそれらのホストのみに送信され、設定された優先ホストには送信されません。
- 優先ホストの登録機能が「conditionally receive」に設定されている。登録されているすべてのホストの登録機能が「conditionally receive」に設定されている場合は優先ホストが RLIR フレームを受信します。

指定できる RLIR 優先ホストは、VSAN ごとに 1 つだけです。

例

次に、VSAN 2 の RLIR 優先ホストとして FC ID 0x654321 を指定する例を示します。

```
switch(config)# rlir preferred-cond fcid 0x654321 vsan 2
```

次に、VSAN 2 の RLIR 優先ホストとして FC ID 0x654321 を削除する例を示します。

```
switch(config)# no rlir preferred-cond fcid 0x654321 vsan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show rlir	RLIR、Link Incident Record Registration (LIPR)、および Distribute Registered Link Incident Record (DRLIR) フレームの情報を表示します。
clear rlir	RLIR をクリアします。
debug rlir	RLIR デバッグをイネーブルにします。

rscn

Registered State Change Notification (RSCN) を設定するには、コンフィギュレーション モードで **rscn** コマンドを使用します。RSCN はファブリック内の変更について N ポートに通知するファイバチャネル サービスです。

```
rscn {multi-pid | suppress domain-swrsnc} vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	multi-pid	複数ポート ID (マルチ PID) フォーマットで RSCN を送信します。
	suppress domain-swrsnc	ドメイン フォーマット SW-RSCN の伝送を抑制します。
	vsan vsan-id	VSAN 情報またはメンバシップを設定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、RSCN をマルチ PID フォーマットで設定する例を示します。

```
switch(config)# rscn multi-pid vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show rscn src-table	状態変更登録テーブルを表示します。
	show rscn statistics	RSCN 統計情報を表示します。

rscn abort

VSAN の Registered State Change Notification (RSCN) 設定を取り消すには、コンフィギュレーションモードで **rscn abort** コマンドを使用します。取り消しを戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
rscn abort vsan vsan-id
```

```
no rscn abort vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	RSCN 設定を取り消す VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	コンフィギュレーションモード
---------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例 次に、VSAN 1 の RSCN 設定を取り消す例を示します。

```
switch(config)# rscn abort vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn commit	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を確定します。
	rscn distribute	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
	rscn event-tov	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
	clear rscn session vsan	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
	show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

rscn commit

未決定の Registered State Change Notification (RSCN) 設定を適用するには、コンフィギュレーションモードで **rscn commit** コマンドを使用します。未決定の RSCN 設定を廃棄するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
rscn commit vsan vsan-id
```

```
no rscn commit vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	RSCN 設定を確定する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
------------------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アクティブ データベースに加えられた変更を確定する場合、ファブリック内のすべてのスイッチに設定が確定されます。確定が正常に行われると、設定の変更がファブリック全体に適用され、ロックが解除されます。

例 次に、VSAN 1 の RSCN 設定を確定する例を示します。

```
switch(config)# rscn commit vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn abort	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を取り消します。
	rscn distribute	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
	rscn event-tov	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
	clear rscn session	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
	show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

rscn distribute

Registered State Change Notification (RSCN) 設定の配信をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **rscn distribute** コマンドを使用します。配信をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

rscn distribute

no rscn distribute

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 RSCN タイマー配信はディセーブルです。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン RSCN タイマーの設定は、VSAN 内のすべてのスイッチで同一にする必要があります。Cisco Fabric Service (CFS) は、RSCN タイマー設定をファブリック内のすべてのスイッチに自動的に配信します。RSCN タイマー設定のみが配信されます。

例 次に、RSCN 設定の配信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# rscn distribute
```

関連コマンド	コマンド	説明
	rscn abort	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を取り消します。
	rscn commit	未決定の RSCN 設定を適用します。
	rscn event-tov	RSCN イベント タイムアウトを設定します。
	clear rscn session	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
	show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

rscn event-tov

指定 VSAN の Registered State Change Notification (RSCN) のイベント タイムアウト値を設定するには、コンフィギュレーション モードで **rscn event-tov** コマンドを使用します。イベント タイムアウト値を取り消し、デフォルトの値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
rscn event-tov timeout vsan vsan-id
```

```
no rscn event-tov timeout vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

timeout	イベント タイムアウト値をミリ秒単位で指定します。有効範囲は 0 ~ 2000 です。
vsan vsan-id	RSCN イベント タイマーを使用する VSAN を指定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

ファイバチャネル VSAN のデフォルトのタイムアウト値は 2000 ミリ秒です。

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

タイムアウト値を変更する前に、**rscn distribute** コマンドを使用して RSCN 設定の配信をイネーブルにする必要があります。

RSCN タイマーは、初期化およびスイッチオーバーの実行時に Cisco Fabric Services (CFS) に登録されます。

例

次に、VSAN 1 の RSCN イベント タイムアウト値を設定する例を示します。

```
switch(config)# rscn event-tov 20 vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
rscn abort	指定された VSAN の未決定の RSCN 設定を取り消します。
rscn commit	未決定の RSCN 設定を適用します。
rscn distribute	RSCN 設定の配信をイネーブルにします。
clear rscn session	指定された VSAN の RSCN セッションをクリアします。
show rscn	RSCN 設定情報を表示します。

san-port-channel persistent

自動作成された SAN ポート チャネルを永続的な SAN ポート チャネルに変換するには、EXEC モードで **san-port-channel persistent** コマンドを使用します。

san-port-channel *port-channel-id* persistent

シンタックスの説明	<i>port-channel-id</i>	ポートチャネル ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 128 です。
	persistent	

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは元に戻すことができません。ユーザ作成のチャネル グループは、自動作成チャネル グループに変換できません。**san-port-channel persistent** コマンドが自動作成されたチャネル グループに適用されると、チャネル グループ番号は変更されず、メンバー ポート プロパティがユーザ作成チャネル グループのプロパティに変更されます。チャネル モードはアクティブのままです。

例 自動作成されたチャネル グループのプロパティを永続的チャネル グループに変更する例を示します。

```
switch# san-port-channel 10 persistent
```

関連コマンド	コマンド	説明
	san-port-channel protocol	SAN ポート チャネル プロトコルをイネーブルにします。
	show interface port-channel	SAN ポート チャネル インターフェイスの情報を表示します。
	show port-channel	SAN ポート チャネル情報を表示します。

scsi-target

SCSI ターゲット検出を設定するには、コンフィギュレーション モードで **scsi-target** コマンドを使用します。SCSI ターゲット検出を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
scsi-target {auto-poll [vsan vsan-id] | discovery | ns-poll [vsan vsan-id] | on-demand [vsan vsan-id]}
```

```
no scsi-target {auto-poll [vsan vsan-id] | discovery | ns-poll [vsan vsan-id] | on-demand [vsan vsan-id]}
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	auto-poll	SCSI ターゲット自動ポーリングをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。
	vsan vsan-id	VSAN ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
	discovery	SCSI ターゲット検出を設定します。
	ns-poll	SCSI ターゲット ネーム サーバ ポーリングをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。
	on-demand	オンデマンドの SCSI ターゲットをグローバルに、または VSAN ごとに設定します。

コマンドのデフォルト設定 各オプションの SCSI ターゲット検出はイネーブルです。

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

自動グローバル SCSI ターゲット検出は、デフォルトで有効です。検出は、オンデマンドのネームサーバ ポーリングを使用して、または自動ポーリング オプションによって、特定の VSAN でトリガーされる場合もあります。すべてのオプションは、デフォルトで有効になっています。すべての検出オプションを無効にするには、**no scsi-target discovery** コマンドを使用します。また、コマンドの **no** 形式を使用して、特定のオプションを無効にすることもできます。

例

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット自動ポーリング検出を設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target auto-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット自動ポーリング検出を削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target auto-poll vsan 1
```

次に、SCSI ターゲット検出を設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target discovery
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット NS ポーリング検出を設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target ns-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット NS ポーリング検出を削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target ns-poll vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット オンデマンド検出を設定する例を示します。

```
switch(config)# scsi-target on-demand vsan 1
```

次に、VSAN 1 の SCSI ターゲット オンデマンド検出を削除する例を示します。

```
switch(config)# no scsi-target on-demand vsan 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
discover scsi-target	スイッチのローカルストレージ上またはファブリックを介したリモートストレージ上の SCSI ターゲットを検出します。
show scsi-target	既存の SCSI ターゲットの設定情報を表示します。

switchport

ファイバチャネルまたはバーチャルファイバチャネルインターフェイスのスイッチポートパラメータを設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションサブモードで **switchport** コマンドを使用します。設定を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

ファイバチャネルインターフェイス：

```
switchport { encaps eisl |
  fcrxbbcredit {credit [mode E | F] | default | } |
  mode {auto | E | F | SD | } |
  speed {1000 | 2000 | 4000 | auto [max 2000]} |
  trunk {allowed vsan {[add] vsan-id | all} | mode {auto | off | on}} }

no switchport { encaps eisl | fcrxbbcredit | fcrxbusize size | mode | rate | speed | trunk allowed vsan
  [[add] vsan-id | all]}
```

バーチャルファイバチャネルインターフェイス：

```
switchport mode F
```

シンタックスの説明

encaps eisl	インターフェイスの Extended ISL (EISL) カプセル化を設定します。
fcrxbbcredit	ポートの受信 BB_credit を設定します。
<i>credit</i>	受信 BB_credit を指定します。有効値は 1 ~ 255 です。
mode	特定のポートモードの受信 BB_credit を設定します。
E	E または TE モードに対する受信 BB_credit を設定します。
F	F ポートモードの受信 BB_credit を設定します。
default	ポートモードおよび機能に基づいてデフォルトの受信 BB_credit を設定します。
mode	ポートモードを設定します。
auto	自動感知モードを設定します。
E	E ポートモードを設定します。
F	F ポートモードを設定します。
SD	SD ポートモードを設定します。
speed	ポート速度を設定します。
1000	1000 Mbps の速度を設定します。
2000	2000 Mbps の速度を設定します。
4000	4000 Mbps の速度を設定します。
auto	自動感知速度を設定します。
max 2000	24 ポートおよび 48 ポートの 4 Gbps スイッチング モジュールインターフェイスの自動モードで予約されている最大帯域として、2 Gbps を設定します。
trunk	インターフェイスのトランキングパラメータを設定します。
allowed	インターフェイスの許可リストを指定します。
vsan	VSAN (仮想 SAN) の範囲を設定します。
add	(任意) VSAN ID を許可 VSAN リストの範囲に追加します。
<i>vsan-id</i>	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
all	すべての VSAN を許可 VSAN リストに追加します。
mode	トランキングモードを設定します。
auto	自動トランキングモードを設定します。
off	トランキングモードをディセーブルにします。
on	トランキングモードをイネーブルにします。

コマンドのデフォルト設定 EISL カプセル化はディセーブルです。

デフォルトの受信データ バッファ サイズは 2112 バイトです。

ポート モードは **auto** です。

速度は **auto** です。

最大自動速度は **2000** です。

トランク モードは **on** です。

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード**コマンド履歴**

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

次の形式でコマンドを入力すると、インターフェイスの範囲を指定できます。

interfacespacefc2/1space-space2space,spacefc3/2space-space4

インターフェイスのポート速度によって、ポート グループのポートが使用可能な共有リソースの量が決まります。ポート グループのリソースは、使用できない帯域幅であっても予約されます。たとえば、インターフェイスが自動感知 (**auto**) を行うよう設定されている場合は、最大稼働速度が 2 Gbps であっても、4 Gbps の帯域が予約されます。同じインターフェイスで、最大速度 2 Gbps (**auto max 2000**) の自動感知が設定されている場合は 2 Gbps の帯域だけが予約され、使用されない 2 Gbps の帯域は、ポート グループの他のインターフェイスにより共有されます。

ポート モードの設定時には、次のガイドラインを守ってください。

- 自動ポートモードおよび E ポートモードは、共有速度モードでは設定できません。
- 共有ポートから専用ポートへは、速度、速度モード、ポートモード、クレジットの順に設定する必要があります。
- 専用ポートから共有ポートへは、クレジット、ポートモード、速度モード、速度の順に設定する必要があります。バーチャルファイバチャネルインターフェイスでは、ポートモードを F に設定できます。その他のスイッチポートパラメータは設定できません。

例

ファイバチャネルインターフェイスのスイッチポートパラメータを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface fc 2/3
switch(config-if)# switchport description techdocsSample
switch(config-if)# switchport mode E
switch(config-if)# switchport trunk mode auto
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan all
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan 3
switch(config-if)# switchport trunk allowed vsan add 2
switch(config-if)# switchport encap eisl
switch(config-if)# switchport fcrxbbcredit 20
```

次に、バーチャルファイバチャネルインターフェイスのモードを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface vfc 2/1
switch(config-if)# switchport mode F
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>fcrxbbcredit extended enable</code>	スイッチで拡張 BB_credit をイネーブルにします。
	<code>show interface</code>	指定のインターフェイスのインターフェイス設定を表示します。

switchport ignore bit-errors

ビット エラーしきい値イベントの検出により、ファイバチャネル インターフェイスがディセーブルになるのを回避するには、**switchport ignore bit-errors** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

switchport ignore bit-errors

no switchport ignore bit-errors

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン スイッチはビット エラー レートしきい値を使用して、トラフィックに重大な影響を与えるほどパフォーマンスが低下する前に、エラー レートの増加を検出します。

ビット エラーは、以下の理由により発生する場合があります。

- ケーブルの欠陥または不具合
- SFP の欠陥または不具合
- SFP が 1 Gbps で動作するよう指定されているのに、2 Gbps で使用されている
- 短距離用ケーブルが長距離に、または長距離用ケーブルが短距離に使用されている
- 瞬間的な同期ずれ
- ケーブルの片端または両端での接続不良
- SFP の片端または両端での接続不良

5 分間に 15 のエラー バーストが発生すると、ビット エラー レートしきい値が検出されます。デフォルトでは、しきい値に達すると、スイッチがインターフェイスをディセーブルにします。**shutdown/no shutdown** コマンドを順番に入力すると、インターフェイスを再度イネーブルにできます。**switchport ignore bit-errors** コマンドが設定されているかどうかに関係なく、ビット エラーしきい値イベントが検出されると Syslog メッセージが生成されます。

例 次に、ビット エラー イベント検出によるインターフェイスのディセーブル設定を回避する例を示します。

```
switch(config)# interface fc2/1
switch(config-if)# switchport ignore bit-errors
```

次に、ビット エラー イベント検出によってインターフェイスをディセーブルにできるようにする例を示します。

```
switch(config)# interface fc2/1
switch(config-if)# no switchport ignore bit-errors
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show interface</code>	インターフェイス情報を表示します。

system default switchport

ファイバチャネル インターフェイスのポート属性を設定するには、コンフィギュレーション モードで **system default switchport** コマンドを使用します。ポート属性をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
system default switchport {shutdown | trunk mode {auto | off | on} }
```

```
no system default switchport {shutdown | trunk mode {auto | off | on} }
```

シンタックスの説明

shutdown	デフォルトでスイッチ ポートをディセーブルまたはイネーブルにします。
trunk	デフォルトでトランキング パラメータを設定します。
mode	トランキング モードを設定します。
auto	自動感知トランキングをイネーブルにします。
off	トランキングをディセーブルにします。
on	トランキングをイネーブルにします。

コマンドのデフォルト設定

イネーブル

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して設定された属性は、その時点で個別に設定されていなくても、これ以降すべてのポート コンフィギュレーションにおいてグローバルに適用されます。

このコマンドは、次のポートのコンフィギュレーションを管理モード F に変更します。

- 動作していないすべてのポート
- 動作モードが F であり、管理モードが F でない、動作しているすべての F ポート

このコマンドは、F 以外の動作しているポートには影響しませんが、これらのポートが動作していない場合は、その管理モードがこのコマンドにより変更されます。

例

次に、ポートのシャットダウンを設定する例を示します。

```
switch(config)# system default switchport shutdown
```

次に、トランク モードを設定する例を示します。

```
switch(config)# system default switchport trunkmode auto
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system default switchport	スイッチ ポート属性のデフォルト値を表示します。
show interface brief	ファイバチャネル ポート モードを表示します。

system default zone default-zone permit

ゾーンのデフォルト値を設定するには、コンフィギュレーション モードで **system default zone default-zone permit** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

system default zone default-zone permit

no system default zone default-zone permit

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 ゾーンのデフォルト値はありません。

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、すべての VSAN のデフォルト ゾーンのデフォルト値を定義します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。デフォルト値を使用しない場合は、**zone default-zone permit vsan** コマンドを使用して、デフォルト ゾーンの稼働値を定義します。

system default zone default-zone permit コマンドは、まだ作成されていない VSAN に使用してください。このコマンドは、既存の VSAN には作用しません。VSAN 1 はデフォルトの VSAN なので常に存在します。そのため、このコマンドは VSAN 1 には作用しません。

例 次に、デフォルト ゾーンを設定してデフォルト値を使用する例を示します。

```
switch(config)# system default zone default-zone permit
```

次に、デフォルト設定に戻す例を示します。

```
switch(config)# no system default zone default-zone permit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	zone default-zone permit vsan	デフォルト ゾーン（作成済みゾーンが割り当てられていないノード）で、その中のすべてへのアクセスが許可されるか、拒否されるかを定義します。
	show system default zone	デフォルト ゾーンのデフォルト値を表示します。

system default zone distribute full

ゾーンセットへの配信にデフォルト値を設定するには、コンフィギュレーションモードで **system default zone distribute full** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
system default zone distribute full
no system default zone distribute full
```

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 アクティブゾーンセットへの配信のみ

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、すべての VSAN にデフォルトゾーンのデフォルト値を配信します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。デフォルト値を使用しない場合は、**zoneset distribute full vsan** コマンドを使用して、デフォルトゾーンの稼働値を配信します。

system default zone distribute full コマンドは、まだ作成されていない VSAN に使用してください。このコマンドは、既存の VSAN には作用しません。VSAN 1 はデフォルトの VSAN なので常に存在します。そのため、このコマンドは VSAN 1 には作用しません。

例 次に、ゾーンセット全体にデフォルト値を配信する例を示します。

```
switch(config)# system default zone distribute full
```

次に、アクティブなゾーンセットのみにデフォルト値を配信する例を示します。

```
switch(config)# no system default zone distribute full
```

関連コマンド	コマンド	説明
	zoneset distribute full vsan	すべてのゾーンセットにデフォルトゾーンの稼働値を配信します。
	show system default zone	デフォルトゾーンのデフォルト値を表示します。

trunk protocol enable

ファイバチャネル インターフェイスのトランキング プロトコルを設定するには、コンフィギュレーション モードで **trunk protocol enable** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

trunk protocol enable

no trunk protocol enable

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドのデフォルト設定 イネーブル

コマンド モード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン トランキング プロトコルがスイッチでディセーブルの場合、そのスイッチで新規トランク コンフィギュレーションを適用できるポートがありません。既存のトランク コンフィギュレーションは影響を受けません。TE ポートは継続してトランキング モードで機能しますが、(トランキング プロトコルがイネーブルの際の)すでにネゴシエートされている VSAN のトラフィックのみをサポートします。また、このスイッチに直接接続している他のスイッチも同様に接続インターフェイスで影響を受けます。場合によっては、非トランキング ISL (スイッチ間リンク) 間の異なるポート VSAN からのトラフィックを統合する必要が生じます。そのような場合は、トラフィックを結合する前に、トランキング プロトコルをディセーブルにする必要があります。

例 次に、トランク プロトコル機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no trunk protocol enable
```

次に、トランク プロトコル機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# trunk protocol enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show trunk protocol	トランク プロトコルのステータスを表示します。

vsan database

同じ物理インフラストラクチャを共有している複数のファブリックを作成し、ポートを VSAN に割り当て、インターオペラビリティ モードをオンまたはオフにし、ロード バランスを送信元の交換ごとにまたは src-dst ID 別に行って、VSAN データベース サブモードを開始するには、**vsan database** コマンドを使用します。設定を削除するには、VSAN データベース サブモードで **no** コマンドを使用します。

vsan database

vsan *vsan-id*

[**interface** {**fc** *slot/port* | **san-port-channel** *port* | **vfc** *vig-num/vint-id*} |

interop [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] |

loadbalancing {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**} |

name *name* [**interop** [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] | **loadbalancing**

{**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] | **suspend** [**interop** [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}]

| **loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] |

suspend [**interop** [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] | **loadbalancing** {**src-dst-id**

| **src-dst-ox-id**}]]

vsan database

no **vsan** *vsan-id*

[**interface** {**fc** *slot/port* | **san-port-channel** *port* | **vfc** *vig-num/vint-id*} |

interop [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] |

loadbalancing {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**} |

name *name* [**interop** [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] | **loadbalancing**

{**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] | **suspend** [**interop** [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}]

| **loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] |

suspend [**interop** [*mode*] [**loadbalancing** {**src-dst-id** | **src-dst-ox-id**}] | **loadbalancing** {**src-dst-id**

| **src-dst-ox-id**}]]

シンタックスの説明

vsan <i>vsan-id</i>	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
interface fc <i>slot/port</i>	（任意）ファイバチャネル インターフェイスをスイッチのスロットおよびポート番号で指定します。
san-port-channel <i>portchannel-number</i> . <i>subinterface-number</i>	SAN ポートチャネル番号のあとにドット (.) インジケータとサブインターフェイス番号を付ける指定方法で SAN ポートチャネル インターフェイスを設定します。
interop	インターオペラビリティ モードをオンにします。
<i>mode</i>	インターオペラビリティ モードを指定します。有効範囲は 1 ～ 4 です。
loadbalancing	ロード バランス方式を設定します。
src-dst-id	ロード バランス用の src-id / dst-id を設定します。
src-dst-ox-id	ロード バランス用の ox-id / src-id / dst-id を設定します（デフォルト）。
name <i>name</i>	VSAN に名前を割り当てます。最大 32 文字まで可能です。
suspend	VSAN を一時停止します。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用するには、VSAN データベース サブモードに変更する必要があります。

インターフェイスの範囲は昇順で、オーバーラップなしです。ハイフンを使用して範囲を指定することも、コンマを使用して複数のインターフェイスを指定することもできます。

- ファイバ チャネル インターフェイスのインターフェイス範囲は、fcslot/port - port , fcslot/port , fcslot/port の形式で指定します (例: `show int fc2/1 - 3 , fc2/4 , fc3/2`)。
- SAN ポート チャネルの形式は、san-port-channel portchannel-number.subinterface-number です (例: `show int san-port-channel 5.1`)。

インターオペラビリティ モードには次の 4 種類があります。

- インターオペラビリティ モード 1 — ファブリック内の他のすべてのベンダーがインターオペラビリティ モードになる必要のある標準ベースのインターオペラビリティ モード
- インターオペラビリティ モード 2 — Brocade ネイティブ モード (Core PID 0)
- インターオペラビリティ モード 3 — Brocade ネイティブ モード (Core PID 1)
- インターオペラビリティ モード 4 — McData ネイティブ モード。インターオペラビリティ モード 4 を設定する (または設定を削除する) 前に、VSAN を一時停止する必要があります。McData OUI [08:00:88] の VSAN 依存スイッチ WWN を設定した後でのみ VSAN の一時停止を解除します。

例 次に、同じ物理インフラストラクチャを共有する複数のファブリックを作成し、ポートを VSAN に割り当てる例を示します。

```
switch(config)# vsan database
switch(config-db)#
switch-config-db# vsan 2
switch(config-vsan-db)# vsan 2 name TechDoc
updated vsan 2
switch(config-vsan-db)# vsan 2 loadbalancing src-dst-id
switch(config-vsan-db)# vsan 2 loadbalancing src-dst-ox-id
switch(config-vsan-db)# vsan 2 suspend
switch(config-vsan-db)# no vsan 2 suspend
switch(config-vsan-db)# end
switch#
```

次に、VSAN を一時停止して、インターオペラビリティ モード 4 をイネーブルにする例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 100 suspend
switch(config-vsan-db)# vsan 100 interop 4
switch(config-vsan-db)# exit
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>vsan-wwn</code>	インターオペラビリティ モード 4 がイネーブルになっている一時停止 VSAN の WWN を設定します。

wwn secondary-mac

SAN ノードにセカンダリ MAC アドレスを割り当てるには、**wwn secondary-mac** コマンドを使用します。

```
wwn secondary-mac wwn-id range address-range
```

シンタックスの説明

secondary-mac wwn-id	セカンダリ MAC アドレスのフォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。
range address-range	指定した World Wide Name (WWN) の範囲。有効値は 64 のみです。

コマンドモード

コンフィギュレーションモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは元に戻せません。

Worldwide Name への変更は、必要な場合のみ実行します。これは毎日変更されるものではありません。これらの変更は、管理者が行うか、スイッチ操作を熟知している人が行ってください。

詳細は、『Cisco Nexus 5000 シリーズ CLI Configuration Guide』を参照してください。

例

次に、セカンダリ MAC アドレスの範囲を割り当てる例を示します。

```
switch(config)# wwn secondary-mac 00:99:55:77:55:55 range 64
This command CANNOT be undone.
Please enter the BASE MAC ADDRESS again: 00:99:55:77:55:55
Please enter the mac address RANGE again: 64
From now on WWN allocation would be based on new MACs.
Are you sure? (yes/no) yes
```

wwn vsan

インターオペラビリティ モード 4 がイネーブルになっている一時停止 VSAN の WWN を設定するには、コンフィギュレーション モードで **wwn vsan** コマンドを使用します。設定を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
wwn vsan vsan-id vsan-wwn wwn
```

```
no wwn vsan vsan-id vsan-wwn wwn
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	vsan vsan-id	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1～4093 です。
	vsan-wwn wwn	VSAN の WWN を指定します。フォーマットは hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、次の条件が満たされた場合にのみ成功します。

- VSAN が一時停止していなければいけません。
- スイッチ WWN を指定できるようになる前に、VSAN でインターオペラビリティ モード 4 がイネーブルである必要があります。
- スイッチ WWN はファブリック全体で一意でなければいけません。
- 設定されたスイッチ WWN には McData OUT [08:00:88] が必要です。

例

次に、WWN を VSAN に割り当てる例を示します。

```
switch(config)# wwn vsan 100 vsan-wwn 20:64:08:00:88:0d:5f:81
WWN can be configured for vsan in suspended state only
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 100 suspend
switch(config-vsan-db)# exit
switch(config)# wwn vsan 100 vsan-wwn 20:64:08:00:88:0d:5f:81
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
vsan database	同じ物理インフラストラクチャを共有している複数のファブリックを作成し、ポートを VSAN に割り当て、インターオペラビリティ モードをオンまたはオフにし、ロード バランスを送信元の交換ごとまたは src-dst ID 別に行います。

zone clone

ゾーン名を複製するには、コンフィギュレーション モードで **zone clone** コマンドを使用します。

```
zone clone current-zone-name new-zone-name vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	
<i>current-zone-name new-zone-name</i>	現行の名前から新しい名前にゾーンの属性グループを複製します。名前は最大 64 文字です。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ゾーン名を削除するには、**zone name** (コンフィギュレーション モード) コマンドの **no** 形式を使用します。

例 次に、origZone という名前のオリジナルゾーングループのクローンを、VSAN 45 のクローンゾーングループ cloneZone に作成する例を示します。

```
switch(config)# zone clone origZone cloneZone vsan 45
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。

zone commit

VSAN のゾーン分割変更を確定するには、コンフィギュレーション モードで **zone commit** コマンドを使用します。コマンドを無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone commit vsan vsan-id [force]
```

```
no zone commit vsan vsan-id [force]
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
	force	（任意）強制的に確定します。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ロックを開始したスイッチのセッション ロックを消去するには、**zone commit** コマンドの **no** 形式を使用します。

例 次に、VSAN 200 のゾーン分割変更を確定する例を示します。

```
switch(config)# zone commit vsan 200
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。

zone compact

VSAN 内のゾーン データベースを圧縮するには、**zone compact** コマンドを使用します。

```
zone compact vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
-----------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	コンフィギュレーションモード
---------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチでは、8000 のゾーンがサポートされます。

VSAN を結合しようとする場合、VSAN 内に 2000 を越えるゾーンが存在すると結合が失敗し、隣接 VSAN で 2000 を越えるゾーンをサポートできなくなります。

VSAN 内に 2000 を越えるゾーンが存在する場合、アクティベーションに失敗し、ファブリック内の 1 つ以上のスイッチで 2000 を越えるゾーンをサポートできなくなります。

例

次に、VSAN 1 でゾーン データベースを圧縮する例を示します。

```
switch(oongif)# zone compact vsan 1
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。
	show zone analysis	ゾーン分割データベースに関する詳細な分析および統計情報を表示します。

zone copy

アクティブなゾーンセットをフルゾーンセットにコピーするには、EXEC モードで **zone copy** コマンドを使用します。このコマンドを無効にするか、または出荷時の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone copy active-zoneset full-zoneset [include-auto-zones] vsan vsan-id
```

```
zone copy vsan vsan-id active-zoneset {bootflash: | ftp: | full-zoneset | scp: | sftp: | tftp: | volatile:}
```

```
no zone copy
```

シンタックスの説明

active-zoneset	アクティブ ゾーンセットからコピーします。
vsan <i>vsan-id</i>	VSAN 上のアクティブ ゾーンセットをフルゾーンセットにコピーするように設定します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。
full-zoneset	アクティブ ゾーンセットをフルゾーンセットにコピーします。
bootflash:	アクティブ ゾーンセットを bootflash: ディレクトリ内の任意の場所にコピーします。
ftp:	アクティブ ゾーンセットを、FTP (ファイル転送プロトコル) を使用してリモート ロケーションにコピーします。
scp:	アクティブ ゾーンセットを、Secure Copy Protocol (SCP) プロトコルを使用してリモート ロケーションにコピーします。
sftp:	アクティブ ゾーンセットを、Secure Trivial File Transfer Protocol (SFTP) プロトコルを使用してリモート ロケーションにコピーします。
slot0:	アクティブ ゾーンセットを slot0: ディレクトリ内の任意の場所にコピーします。
tftp:	アクティブ ゾーンセットを、Trivial File Transfer Protocol (TFTP; 簡易ファイル転送プロトコル) プロトコルを使用してリモート ロケーションにコピーします。
volatile:	アクティブ ゾーンセットを volatile: ディレクトリ内の任意の場所にコピーします。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、アクティブ ゾーンセットをフルゾーンセットにコピーする例を示します。

```
switch# zone copy active-zoneset full-zoneset vsan 1
```

次に、VSAN 3 のアクティブ ゾーンセットを、SCP を使用してリモート ロケーションにコピーする例を示します。

```
switch# zone copy vsan 3 active-zoneset scp://guest@myserver/tmp/active_zoneset.txt
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。

zone default-zone

デフォルトゾーン（作成されたゾーンに割り当てられていないノードに指定されるゾーン）がデフォルトゾーン内のすべてのノードへのアクセスを許可するか拒否するかを定義するには、コンフィギュレーションモードで **zone default-zone** コマンドを使用します。このコマンドを無効にするか、または出荷時の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

zone default-zone permit vsan vsan-id

no zone default-zone permit vsan vsan-id

シンタックスの説明	コマンド	説明
	permit	デフォルトゾーン内すべてのノードに対するアクセスを許可します。
	vsan vsan-id	指定した VSAN（仮想 SAN）でのデフォルトのゾーン分割動作を設定します。VSAN ID の有効範囲は、1～4093 です。

コマンドのデフォルト設定 すべてのデフォルトゾーンがアクセスを許可します。

コマンドモード コンフィギュレーションモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン VSAN 内のデフォルトゾーンに対する運用値を定義するには、**zone default-zone permit vsan** コマンドを使用します。このコマンドは既存の VSAN に適用されます。まだ作成されていない VSAN には効果がありません。

全 VSAN のデフォルトゾーンに定義されたデフォルト値を使用するには、**system default zone default-zone permit** コマンドを使用します。デフォルト値は、VSAN が最初に作成されてアクティブになる際に使用されます。

例 次に、VSAN 2 内のデフォルトゾーン分割を許可する例を示します。

```
switch(config)# zone default-zone permit vsan 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	system default zone default-zone permit	ゾーンのデフォルト値を設定します。
	show zone	ゾーン情報を表示します。

zone merge-control restrict vsan

ゾーンデータベースの結合を制限するには、コンフィギュレーションモードで **zone merge-control restrict vsan** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone merge-control restrict vsan vsan-id
```

```
no zone merge-control restrict vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
コマンドのデフォルト設定		ディセーブル
コマンドモード		コンフィギュレーションモード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Release 4.0	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン		結合制御設定が制限され、2 つのデータベースが同じでない場合、結合は失敗し、スイッチ間の ISL（スイッチ間リンク）は隔離されます。
例		次に、VSAN 10 のゾーン結合制御を制限に設定する例を示します。 switch(config)# zone merge-control restrict vsan 10
関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。

zone mode enhanced

VSAN の拡張ゾーン分割をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **zone mode enhanced** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone mode enhanced vsan vsan-id
```

```
no zone mode enhanced vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	vsan vsan-id	VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。
-----------	---------------------	--

コマンドのデフォルト設定	ディセーブル
--------------	--------

コマンド モード	コンフィギュレーション モード
----------	-----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	<p>zone mode enhanced コマンドを使用する前に、ファブリックの全スイッチが拡張ゾーン分割モードで動作可能であることを確認してください。1 つまたは複数のスイッチが拡張ゾーン分割モードで動作しない場合、拡張ゾーン分割モードをイネーブルにする要求は拒否されます。</p> <p>zone mode enhanced vsan コマンドが正常に完了すると、ソフトウェアは、セッションの開始、拡張ゾーン分割データ構造を使用したゾーン分割データベースの配信、コンフィギュレーション変更の適用、およびファブリックの全スイッチへの Release Change Authorization（RCA）の送信を自動的に行います。次に、ファブリックの全スイッチは拡張ゾーン分割モードをイネーブルにします。</p>
------------	--

例	次に、拡張ゾーン分割モードをイネーブルにする例を示します。
---	-------------------------------

```
switch(config)# zone mode enhanced vsan 10
```

関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>show zone</td> <td>ゾーン情報を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	show zone	ゾーン情報を表示します。
コマンド	説明				
show zone	ゾーン情報を表示します。				

zone name (コンフィギュレーション モード)

ゾーンを作成するには、コンフィギュレーション モードで **zone name** コマンドを使用します。このコマンドを無効にするか、または出荷時の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
zone name zone-name vsan vsan-id
      member
```

```
zone name zone-name vsan vsan-id
      no member
```

```
no zone name zone-name vsan vsan-id
```

シンタックスの説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
<i>vsan vsan-id</i>	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ゾーンはゾーン セットに割り当てられます。ゾーン セットは 1 つのスイッチからアクティブになり、ファブリック全体のすべてのスイッチに伝播されます。ゾーンは、ノード (ホストおよびストレージ) 間のアクセスを許可および拒否するセキュリティ対策を可能にします。**zone name** コマンドは、コンフィギュレーション モードから入力されます。VSAN 用のゾーンを **config-zone** サブモードから作成します。

sWWN を検索するには、**show wwn switch** コマンドを使用します。sWWN を指定しない場合、ソフトウェアは自動的にローカル sWWN を使用します。

例

次に、指定のメンバー タイプ (pWWN、ファブリック pWWN、FCID、またはファイバ チャネル エイリアス) および値に基づいて指定ゾーン (Zone1) の属性を設定する例を示します。

```
switch(config)# zone name Zone1 vsan 10
switch(config-zone)# member device-alias device1
```

次に、指定のメンバー タイプ (pWWN、ファブリック pWWN、FCID、またはファイバ チャネル エイリアス) および値に基づいて指定ゾーン (Zone2) のメンバーを設定する例を示します。

```
switch(config)# zone name Zone2 vsan 10
switch(config-zone)# member fcalias Payroll
switch(config-zone)# member domain-id 2 portnumber 23
```

関連コマンド

コマンド	説明
show zone	ゾーン情報を表示します。
zone rename	ゾーンの名前を変更します。
zone-attribute-group name	ゾーンアトリビュート グループを設定します。

■ zone name (ゾーンセットコンフィギュレーションサブモード)

zone name (ゾーンセットコンフィギュレーションサブモード)

ゾーンセットのゾーンを設定するには、ゾーンセットコンフィギュレーションサブモードで **zone name** コマンドを使用します。ゾーンセットからゾーンを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

zone name *zone-name*

no zone name *zone-name*

シンタックスの説明	<i>zone-name</i>	ゾーン名を指定します。最大 64 文字まで可能です。
-----------	------------------	----------------------------

コマンドのデフォルト設定	なし
--------------	----

コマンドモード	ゾーンセットコンフィギュレーションサブモード
---------	------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	なし
------------	----

例 次に、ゾーンセットのゾーンを設定する例を示します。

```
switch(config)# zoneset name Sample vsan 1
switch(config-zoneset)# zone name MyZone
```

次に、ゾーンセットからゾーンを削除する例を示します。

```
switch(config-zoneset)# no zone name Zone2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zoneset	ゾーンセット情報を表示します。
	zone name (コンフィギュレーションモード)	ゾーンを設定します。
	zoneset	ゾーンセット属性を設定します。

zone rename

ゾーンの名前を変更するには、コンフィギュレーションモードで **zone rename** コマンドを使用します。

```
zone rename current-name new-name vsan vsan-id
```

シンタックスの説明	パラメータ	説明
	<i>current-name</i>	現在の Fibre Channel (FC) エイリアスの名前を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。最大 64 文字まで可能です。
	vsan <i>vsan-id</i>	VSAN (仮想 SAN) ID を指定します。有効範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例 次に、ゾーンの名前を変更する例を示します。

```
switch# zone rename ZoneA ZoneB vsan 10
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show zone	ゾーン情報を表示します。
	zone name	ゾーンを作成および設定します。

zoneset (コンフィギュレーション モード)

複数のゾーンを1つのゾーンセットにまとめるには、コンフィギュレーション モードで **zoneset** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、出荷時の設定に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
zoneset {activate [name zoneset-name] vsan vsan-id | clone zoneset-currentName zoneset-cloneName
vsan vsan-id | distribute full vsan vsan-id name zoneset-name vsan vsan-id | rename current-name
new-name vsan vsan-id}
```

```
no zoneset {activate [name zoneset-name] vsan vsan-id | clone zoneset-currentName
zoneset-cloneName vsan vsan-id | distribute full vsan vsan-id name zoneset-name vsan vsan-id |
rename current-name new-name vsan vsan-id}
```

シンタックスの説明

activate	ゾーンセットをアクティブ化します。
clone <i>zoneset-currentName</i> <i>zoneset-cloneName</i>	現行の名前から新しい名前にゾーンセットを複製します。名前は最大 64 文字です。
name <i>zoneset-name</i>	(任意) ゾーンセットの名前を指定します。最大 64 文字まで可能です。
distribute full	ゾーンセットの伝播をイネーブルにします。
vsan <i>vsan-id</i>	指定した VSAN (仮想 SAN) でゾーンセットをイネーブルにします。有効範囲は 1 ~ 4093 です。
rename	ゾーンセットの名前を変更します。
<i>current-name</i>	現在の Fibre Channel (FC) エイリアスの名前を指定します。
<i>new-name</i>	新しい FC エイリアスの名前を指定します。

コマンドのデフォルト設定

なし

コマンド モード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

親ゾーンセットをアクティブ化することでゾーンはアクティブ化されます。

zoneset distribute full vsan コマンドは、デフォルト ゾーン の運用値を VSAN 内の全ゾーンセットに配信します。運用値を配信したくない場合は、**system default zone distribute full** コマンドを使用して、デフォルト値を配信します。デフォルト値は、最初に VSAN が作成されてアクティブになるときに使用されます。

zoneset distribute full vsan コマンドは既存の VSAN に適用されます。まだ作成されていない VSAN には効果がありません。

例

次に、VSAN 333 内の zSet1 という名前のゾーンセットをアクティブにする例を示します。

```
switch(config)# zoneset activate name zSet1 vsan 333
```

次に、zSet1 という名前のゾーンセットを、VSAN 45 の zSetClone という新しいゾーンセットに複製する例を示します。

```
switch(config)# zoneset clone existing zSet1 zSetClone vsan 45
```

次に、デフォルトゾーンの運用値を VSAN 22 内の全ゾーンセットに配信する例を示します。

```
switch(config)# zoneset distribute full vsan 22
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>system default zone distribute full</code>	ゾーンセットに配信するデフォルト値を設定します。
<code>show zoneset</code>	ゾーンセット情報を表示します。

zoneset (EXEC モード)

ゾーンセットデータベースを結合するには、EXEC モードで **zoneset** コマンドを使用します。

```
zoneset {distribute | export | import interface {fc slot/port | san-port-channel port-number}} vsan
vsan-id
```

シンタックスの説明		
distribute		ファブリックのフルゾーンセットを配信します。
export		ゾーンセットデータベースを指定した VSAN (仮想 SAN) の隣接スイッチにエクスポートします。このスイッチのアクティブゾーンセットは、結合された Storage Area Network (SAN; ストレージエリア ネットワーク) のアクティブ化されたゾーンセットになります。
import		ゾーンセットデータベースを指定したインターフェイスの隣接スイッチにインポートします。この隣接スイッチのアクティブゾーンセットは、結合された SAN のアクティブ化されたゾーンセットになります。
interface		インターフェイスを設定します。
fc slot/port		(任意) 指定スロット番号およびポート番号のファイバチャネルインターフェイスを設定します。
san-port-channel port-number		SAN ポートチャネルインターフェイスを指定します。
vsan vsan-id		指定したインターフェイス上にある VSAN (仮想 SAN) のゾーンセットデータベースを結合します。VSAN ID の有効範囲は、1 ~ 4093 です。

コマンドのデフォルト設定 なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **zoneset import** および **zoneset export** コマンドは VSAN の範囲に対しても入力できます。

zoneset distribute vsan vsan-id コマンドは、**interop 2** および **interop 3** モードではサポートされていますが、**interop 1** モードではサポートされていません。

例 次に、VSAN 2 インターフェイスを介して接続された隣接スイッチからゾーンセットデータベースをインポートする例を示します。

```
switch# zoneset import interface fc2/3 vsan 2
```

次に、VSAN 5 を介して接続された隣接スイッチにゾーンセットデータベースをエクスポートする例を示します。

```
switch# zoneset export vsan 5
```

次に、VSAN 333 のゾーンセットを配信する例を示します。

```
switch# zoneset distribute vsan 333
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show zone status vsan</code>	指定した VSAN の配信ステータスを表示します。
<code>show zoneset</code>	ゾーンセット情報を表示します。

